

官報

號外 昭和十二年三月二十九日

○第七十回貴族院議事速記録第二十六號

昭和十二年三月二十八日(日曜日)午前十時
二十二分開議

議事日程 第二十七號

昭和十二年三月二十八日

午前十時開議

第一 昭和十二年度一般會計歳出ノ財
源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル
法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二 會計検査院法中改正法律案(政
府提出、衆議院送付)

第一讀會

第三 日本銀行金買入法中改正法律案
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第四 神戸商業大學移轉改築費ニ充用
シタル金額ノ補填ニ關スル法律案
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第五 農村負債整理資金特別融通及損
失補償法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第六 防空法案(政府提出、衆議院送
付)

第一讀會

第七 アルコール專賣法案(政府提出、
衆議院送付)

第一讀會

第八 揮發油及アルコール混用法案
(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第九 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマ
ス

(角倉書記官朗讀)

昨二十七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府
提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆
議院ニ通知セリ

臨時租稅増徴法案

法人資本稅法案

外貨債特別稅法案

揮發油稅法案

有價證券移轉稅法案

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

地方鐵道補助法中改正法律案

橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收
ノ爲公債發行ニ關スル法律案

同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ
氏名左ノ如シ

小運送業法案特別委員會

委員長 男爵飯田精太郎君

副委員長 遠藤 柳作君

國民健康保險法案特別委員會

委員長 男爵大森 佳一君

副委員長 子爵高倉 篤麿君

保健所法案特別委員會

委員長 伯爵川村鐵太郎君

副委員長 男爵佐藤達次郎君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十二年度歳入歳出總豫算案、昭和十
二年度各特別會計歳入歳出豫算案、豫算
外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要
スル件可決報告書

昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ
ル爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

昭和七年法律第一號中改正法律案可決報
告書

昭和七年法律第十二號中改正法律案可決
報告書

日本銀行條例中改正法律案可決報告書

日本銀行參與會法廢止法律案可決報告書

東京農業教育專門學校創設ニ伴フ帝國大
學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關
涉ニ關スル法律案可決報告書

帝國ノ滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及
南滿洲鐵道附屬地行政權ノ調整乃至移讓
ニ伴ヒ退官退職シタル者等ニ交付スル公
債發行ニ關スル法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案(第
一號)

昭和十二年度各特別會計歳入歳出追加案
(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件(追第一號)

昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ
ル爲公債追加發行ニ關スル法律案

會計検査院法中改正法律案

日本銀行金買入法中改正法律案

神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金
額ノ補填ニ關スル法律案

農村負債整理資金特別融通及損失補償法
案

防空法案

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開
キマス、日程第一、昭和十二年度一般會計
歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關ス
ル法律案、日程第二、會計検査院法中改正
法律案、日程第三、日本銀行金買入法中改
正法律案、日程第四、神戸商業大學移轉改
築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律
案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是
等ノ四案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異
議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認
メマス、結城大藏大臣

(左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經
サルモ參照ノ爲茲ニ載録ス以下之
ニ倣フ)

昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充
ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十七日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長 近衛文麿殿

昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充
ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

政府ハ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源
ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金
額ノ外五千二百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行
シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額
ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項

ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

會計検査院法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十七日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長 公爵近衛文麿殿

會計検査院法中改正法律案

會計検査院法中左ノ通改正ス

第二條中「部長三員検査官十二員」ヲ「部長四員検査官十四員」ニ、「副検査官專任二十員」ヲ「副検査官專任二十四員」ニ改ム

第五條中「三部」ヲ「四部」ニ、「検査官四員」ヲ「検査官三員又ハ四員」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

日本銀行金買入法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十七日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長 公爵近衛文麿殿

日本銀行金買入法中改正法律案

日本銀行金買入法中左ノ通改正ス

第四條第二項中「二億圓」ヲ「四億圓」ニ改ム

第五條第一項中「國庫金ノ勘定ニ移スベキコト」ノ下ニ「又ハ之ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ處分スベキコト」ヲ、同條第二項中「納付スベシ」ノ下ニ「日本銀行ガ金ノ處分ニ依リテ得タル利益ニ相當スル金額ニ付亦同ジ」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十七日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長 公爵近衛文麿殿

神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案

昭和三年度ニ於テ施行シタル元神戶高等商業學校ノ移轉改築ノ經費及昭和四年度乃至昭和十年度ニ互リ施行シタル神戸商業大學ノ移轉改築ノ經費ニ充用シタル金額ヲ補填スル爲昭和十三年度迄ニ官立大學資金ノ内百三十二萬七千四百五十三圓ヲ限リ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

附則

本法ハ昭和十二年度ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年法律第二十六號ハ之ヲ廢止ス

（國務大臣結城豐太郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（結城豐太郎君） 只今議題トナリマシタ昭和十二年度一般會計歲出入ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和十二年度歲入歳出總豫算ニ伴フ一般會計歲入不足

ノ補填ニ付キマシテハ、之ニ關スル法律案ヲ今期議會ニ提出シテアリマスルガ、別途提出致シマシタ同年度歲入歳出總豫算追加第一號ニ計上致シマシタ經費ノ財源ニ付キマシテモ、亦今日ノ場合其ノ大部分ハ公債ニ依ルノ外アリマセヌノデ、五千二百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ得ルコトト致シマシテ、本法法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、尙本法法律案ハ前述ノ如ク、總豫算ニ伴フ歳入補填公債法律案ガ目下御審議中ナルニ鑑ミマシテ、別ニ法律案ト致シマシタ次第デアリマス、次ニ日本銀行金買入法中改正法律案ニ付キ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和九年四月ヨリ施行セラレマシタ日本銀行金買入法ニ依リ、日本銀行ハ金ノ買入ヲ實行シテ參ツタノデアリマスルガ、同行ノ金買入額ノ増加ニ伴ヒ、政府ノ同行ニ對シ負擔スル債務モ亦増加致シマシテ、從ツテ法律ニ定メラレマシタル債務負擔ノ餘力ハ著シク減少ヲ見ルニ至ツタノデアリマス、依ツテ今後引續キ日本銀行ヲシテ金ノ買入ヲ實行セシムル爲ニハ、此ノ際政府ノ債務負擔ノ限度ヲ二億圓増加致シマシテ、四億圓ト改ムルヲ適當ト認ムルノデアリマス、次ニ本法ニ依リ日本銀行ガ買入レマシタ金ヲ外貨資金調達ノ爲メ使用致シマスルノ途ハ現行法ノ下ニ於キマシテハ、之ヲ國庫金ノ勘定ニ移スノ方法ニ依ルヨリ外ナイノデアリマスルガ、此ノ際政府ガ日本銀行ニ對シ、同行自身ニ於テ之ヲ海外ニ現送シテ賣却スル等ノ處分ヲ爲スベキコトヲ講ジ得ルノ途ヲモ開イテ置クコトヲ適當ト認メマスノデ、是ガ爲メ必要ナル規定ヲ設ケタイト存ズルノデアリマス、終リニ神戸商業大學ノ移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關ス

ル法律案ノ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和三年度ニ於テ施行致シマシタル元神戶高等商業學校ノ移轉改築ノ經費、竝ニ昭和四年度ヨリ昭和十年度ニ互リ施行致シマシタル神戸商業大學ノ移轉改築ノ經費ニ充用致シマシタ百三十二萬餘圓ニ付キマシテハ、現行法ニ依リマスルト、昭和十一年度迄ニ官立大學資金ヨリ一般會計ニ、右ニ相當スル金額ヲ繰入レルコトヲ得ルコトニ定メラレデアリマスルガ、官立大學資金ハ昭和十一年度迄ニ是ガ繰入ヲ爲スコトガ出來マセヌノデ、昭和十三年度迄ニ繰入ル、コトヲ得ルヤウニスル爲メ、本法法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長（公爵近衛文麿君） 川越法制局長官（政府委員川越文雄君演壇ニ登ル）

○政府委員（川越文雄君） 只今上程ニナリマシタ會計検査院法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ申上ゲタイト思ヒマス、近年諸官省ノ新設、各般ノ新規施設ハ年ト共ニ漸ク多キヲ加ヘマシテ、特ニ國際時局ノ緊張ニ伴ヒマシテ、國防充實ノ爲ニ必要ナル經費ヲ激増ヲ見ルニ及ビマシタ、會計検査院ニ於ケル検査事務ノ分量モ遽カニ増加スルニ至ツタノデアリマス、滿洲事件以來既ニ數年ヲ閱シ、在滿諸機構ノ如キモ漸ク平常化スルニ至リマシテ、廣大ナル地域ニ互ツテノ會計實地検査ナドニハ非常ナル手不足ヲ感ズルノデアリマス、斯クノ如キ狀態ヲ以テ推移致シマスコトハ、國家ノ財政監督上誠ニ好マシカラヌモノデアリマス、茲ニ於テ會計検査院ニ於テ、現在ノ三部ニ更ニ一部ヲ増設シ、會計検査ノ充實ヲ期スル爲メ同院ニ部長一人、検査官二人、副検査官

四人ヲ増員致シタイノデアリマス、是ガ本
案ヲ提出スル所以デアリマス、何卒御審議
ノ上、速カニ御協賛アラムコトヲ御願ヒ致
シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御質疑ガナ
ケレバ、是等ノ四案ハ之ヲ昭和十二年度一
般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關
スル法律案外六件ノ特別委員ニ付託致シマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第五、農村
負債整理資金特別融通及損失補償法案、政
府提出、衆議院送付、第一讀會、山崎農林
大臣

農村負債整理資金特別融通及損失補償
法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十二年三月二十七日

衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

(小字及——ハ衆議院ノ修正ナリ)

農村負債整理資金特別融通及損失補償
法案

農村負債整理資金特別融通及損失補
償法

第一條 市町村又ハ産業組合中央金庫ハ
負債整理事業ヲ助成スル爲必要アリト
認ムルトキハ負債整理組合又ハ農村負
債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債
整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ
定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ
得

産業組合中央金庫ノ爲ス前項ノ特別融
通ハ所屬信用組合ガ農村負債整理組合
法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ
行フ場合又ハ所屬信用組合ガ其ノ組合
員タル負債整理組合若ハ農村負債整理
組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事
業ヲ行フ法人ニ對シ負債整理資金ヲ融
通スル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依
リ其ノ信用組合ニ對シ之ヲ爲スモノト
ス

日本勸業銀行、農工銀行又ハ北海道拓
殖銀行(以下融資銀行ト稱ス)ハ負債整
理組合ノ組合員、農村負債整理組合法
第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行
フ法人ノ組織者又ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ負債ノ整理ヲ爲ス者ニ對シ主務大
臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコ
トヲ得

第二條 市町村、産業組合中央金庫又ハ
融資銀行ガ前條ノ規定ニ依リ特別融通
ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日
ヨリ十年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法
施行ノ日ヨリ二十五年ヲ超ユルコトヲ
得ズ

第三條 融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル
特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル貸付金額
ハ日本勸業銀行法第十八條又ハ農工銀
行法第十條ノ規定ニ拘ラズ其ノ擔保タ
ル不動産ニ付鑑定シタル價格以內トス
第四條 産業組合中央金庫特別融通及損
失補償法第三條及第四條ノ規定ハ産業
組合中央金庫ガ第一條ノ規定ニ依ル特
別融通ヲ爲ス場合ニ、不動産融資及損
失補償法第四條及第五條ノ規定ハ融資
銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ

爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五條 北海道府縣ハ第一條ノ規定ニ依
ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失
ヲ受ケタルトキ之ニ對シ其ノ特別融通
總額ノ十分ノ三以內ノ金額(市町村ニ
對スル損失補償金)ヲ補償スルノ契約
ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北
海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之
ニ對シ其ノ市町村ニ對スル損失補償金
ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ補給スル
ノ契約ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町
村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テ
ハ北海道府縣ノ市町村ニ對スル損失補
償金中其ノ六分ノ一ニ相當スル金額ヲ
當該市町村ニ於テ負擔スベキ旨ヲ定ム
ベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ
定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金
額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ爲
シ又ハ市町村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコ
トヲ得

第六條 政府ハ第一條ノ規定ニ依ル特別
融通ヲ爲スニ因リ産業組合中央金庫又
ハ融資銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ産
業組合中央金庫ニ對シテハ其ノ特別融
通總額ノ十分ノ三以內、融資銀行ニ對
シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ二以
內ノ金額ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコト
ヲ得

第七條 第五條第一項及前條ノ損失ヲ決
定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議
シテ之ヲ定ム

第八條 第五條第二項及第六條ノ規定ニ

依ル政府ノ補給金及補償金ノ總額ハ一
億二千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九條 第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ
爲シタルニ因リ市町村、産業組合中央
金庫又ハ融資銀行ノ受ケタル損失及其
ノ額ハ負債整理資金特別融通損失審査
會之ヲ決定ス

負債整理資金特別融通損失審査會ニ關
スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第五條第二項及第六條ノ契約ニ
基キ政府ガ北海道府縣、産業組合中央
金庫及融資銀行ニ對シ支拂フベキ補給
金又ハ補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交
付スルコトヲ得

第十一條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付
スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發
行スルコトヲ得

第十二條 本法ニ依リ交付スル國債證券
ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣
之ヲ定ム

第十三條 本法中町村トアルハ町村制ヲ
施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモ
ノトス

附則

第十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第十五條 農村負債整理組合法第三章ヲ
削ル

從前ノ農村負債整理組合法第二十六條
ノ規定ニ依ル特別融通ニ關シテハ仍從
前ノ例ニ依ル但シ同法第三十一條第一
項ノ規定ニ依リ決定ハ本法第九條ノ負
債整理資金特別融通損失審査會之ヲ行
フ

第十六條 農村負債整理組合法第七條ニ

左ノ一項ヲ加フ

負債整理組合ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業遂行ノ爲必要ナル土地ヲ取得スル場合亦前項ニ同ジ

同法第八條第二項及同法第十六條中

「六年間」ヲ「十二年間」ニ改ム

第十七條 登録稅法第十九條但書中「第十四號乃至第十六號」ヲ「第十四號乃至第十七號」ニ改メ同條第十五號及第十六號ヲ左ノ如ク改ム

十五 市町村、産業組合中央金庫、

信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、負債整理組

合又ハ農村負債整理組合法第八條

ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ

法人ノ負債整理ノ爲ノ資金貸付ノ

場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

十六 市町村、産業組合中央金庫、

信用組合、負債整理組合又ハ農村

負債整理組合法第八條ノ規定ニ依

リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負

債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタ

ル者ガ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザ

ルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、

産業組合中央金庫、信用組合、負債

整理組合又ハ農村負債整理組合法

第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業

ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記

十七 負債整理組合又ハ農村負債整

理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債

整理事業ヲ行フ法人ノ同法第七條

第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土

地所有權ノ取得ノ登記

〔國務大臣(山崎達之輔君) 提案ノ理由ヲ

御説明申上ゲマス、農村負債整理ニ關シマ

スル現在ノ制度ハ、昭和八年八月ニ實施致

サレタノデゴザリマシテ、爾來三年有餘ヲ

經過致シテ居リマスルガ、其ノ成績未ダ十

分ナリト申上ゲル譯ニハ參ラスノデゴザリ

マス、農山漁村ノ負債總額ハ、四十億ヲ超

ユルノ計算ト相成ッテ居リマシテ、此ノ負債

ノ重壓ヲ緩和致シマスルコトハ、農村ノ更

生上極メテ緊要ノコトデゴザリマスルカ

ラ、此ノ際負債整理ノ制度ヲ擴充致シマシ

テ、一層其ノ促進ヲ圖リマスルコトハ誠ニ

急務ト存ズル次第デゴザリマスル、今回ノ

法案ノ要旨ト致シマスル所ハ、政府ノ損失

補償ニ依リマシテ、負債整理資金ヲ融通ス

ル機關ハ御承知ノヤウニ、從來市町村ニ限

定サレテ居ッタノデアリマスガ、今回其ノ途

ヲ擴メマシテ、産業組合中央金庫、日本勸

業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ヲ經由

機關トシテ認メルコトト致シタイノデアリ

マス、更ニ資金總額ヲ大體是迄二億ト限ラ

レテ居ッタノデアリマスガ、今回之ヲ五億ニ

擴張致シタイ考デアリマス、從ッテ政府ノ損

失補償金ノ總額ヲ一億二千萬圓ニ増加致ス

ノデゴザリマス、更ニ市町村經由ノ場合ニ

於キマシテ、從來政府ノ損失補償ノ割合

ガ、總額ノ一割五分トナッテ居リマシタモ

ノヲ、今回ハ二割ニ増加致シマシテ、之ニ

依ッテ府縣市町村ノ負擔ヲ輕減スルコトト

致シマシテ、負債整理事業ノ促進ヲ圖リタ

イト存ズル次第デアリマス、尙本法案ニ付

キマシテ、第五條第三項但書ノ規定ニ對シ

マシテ、衆議院ニ於テ修正ガ加ヘラレタノ

デゴザリマスルガ、之ニ對シマシテハ政府

ハ同意ヲ表明致シテ置キマシタ次第デゴザ

リマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛アラ

ムコトヲ御願ヒ致ス次第デアリマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ特別委員

ノ氏名ヲ朗讀サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

農村負債整理資金特別融通及損失補償法

案特別委員

侯爵久我 通顯君 子爵西大路吉光君

子爵岩城 隆德君 男爵足立 豐君

岡田 文次君 小坂 順造君

内藤 久寬君 石川 三郎君

金成 通君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第六、防空

法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、

河原田内務大臣

防空法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十七日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

防空法案

第一條 本法ニ於テ防空ト稱スルハ戰時

又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生

ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害

ヲ輕減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ則應

シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ燈火管制、

消防、防毒、避難及救護並ニ此等ニ關

シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空

計畫ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シ

必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル

計畫ヲ謂フ

必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル

計畫ヲ謂フ

第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總

監ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ地方長官

ノ指定スル市町村長防空委員會ノ意見

ヲ徵シ之ヲ設定シ主務大臣又ハ地方長

官ノ認可ヲ受クベシ

第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ規模大ナル事業又ハ施設ニシテ防空

上特ニ必要アルモノニ付行政廳ニ非ザ

ル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシム

ルコトヲ得

前項ノ防空計畫ハ主務大臣ノ認可ヲ受

クベシ

第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計

畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施

ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ

爲スベシ

第五條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又

ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ關シ必要

ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又

ハ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ

資材ヲ供用セシムルコトヲ得

第六條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防毒、救

護其ノ他防空ノ實施ニ從事セシムルコ

トヲ得

第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ

設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施

ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シ

必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 燈火管制ヲ實施スル場合ニ於テ

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施區域
内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ
管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令
ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第九條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要ヲ
ルトキハ地方長官又ハ市町村長ハ他人
ノ土地若ハ家屋ヲ一時使用シ、物件ヲ收
用若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内ニ
在ル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシム
ルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ
之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ
基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履
行ヲ市町村長ガ強制スル場合ニ之ヲ準
用ス

第十條 主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ
對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防
空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命令スルコト
ヲ得

前項ノ規定ニ依リ防空ノ訓練ヲ爲ス場
合ニ於テハ第三條第一項ノ規定ニ依ル
防空計畫ノ設定者ハ其ノ從業者ヲシテ
防空ノ訓練ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ燈火管制ノ訓練ヲ
爲ス場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依
リ訓練區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備
又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者
ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘
匿スベシ

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要ア
ルトキハ主務大臣、地方長官又ハ市町
村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ
對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏
員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ
爲サシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅竝

ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ
付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ
其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知ス
ベシ

當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ
關係アル場所ニ立入ル場合ハ其ノ證票
ヲ携帯スベシ

第十二條 第六條又ハ第九條第一項ノ規
定ニ依リ防空ノ實施ニ從事スル者之ガ
爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シ
タル場合ニ於テハ地方長官、市町村長

又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計
畫ノ設定者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本
人又ハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ對シ療養又
ハ葬祭ニ要スル費用ヲ給スベシ

第十三條 地方長官第五條ノ規定ニ依リ
防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資
材ヲ供用セシメ又ハ地方長官若ハ市町
村長第九條第一項ノ規定ニ依リ土地家
屋物件ヲ收用若ハ使用スル場合ニ於テ

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補
償スベシ

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補
償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定
ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、供用、收用
又ハ使用ノ後六月ヲ經過シテ補償金額
ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期
間經過シタル日ヨリ六月以内ニ通常裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 地方長官第六條第一項ノ規定
ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防空
ノ實施ニ從事セシメ又ハ第三條第一項
ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者第六條
第二項ノ規定ニ依リ其ノ從業者ヲシテ

防空ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テ
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨
償スベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ實費辨償ニ
之ヲ準用ス

第十五條 防空計畫ノ設定、防空ノ實施、
防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資
材ノ整備、第十條第一項ノ規定ニ依ル
防空ノ訓練又ハ第十二條ノ規定ニ依ル
給與ヲ爲スニ要スル費用ハ地方長官之
ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、

市町村長之ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村、
第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ
設定者之ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ノ
負擔トス

特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條ノ
規定ニ依リ設備又ハ資材ノ整備ヲ爲ス
ニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第十六條 防空委員會ニ關スル規程ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 國庫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補
助ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海
道、府縣、市町村又ハ第三條第一項
ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ負
擔スル費用

二 第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊
施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル
費用

ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者
ハ三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ
處ス

故ナク第十一條第一項ノ規定ニ依ル資
料ノ提出ヲ拒ミ若ハ虛偽ノ資料ヲ提出
シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入検査ヲ
拒ミ若ハ妨ゲタル者亦前項ニ同ジ

第二十條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ
全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノ
ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其
ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中
町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモ
ノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ
準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

第二十一條 國ニ於テ管理スル施設ニ關
スル防空ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依
ル

第二十二條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太
ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ
勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル)
○國務大臣(河原田稼吉君) 只今議題ニ供
セラレマシタル防空法案ニ關シマシテ、提
案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、
御承知ノ通り近年航空機ノ著シキ發達ニ伴
ヒマシテ、各國トモ競ッテ空軍ノ充實ニ力ヲ
致シツ、アル現狀デアリマシテ、之ヨリ考
ヘマスルニ、一旦他國ト干戈ヲ交フルガ如
キ事態ト相成リマシタル場合、敵機ノ來
襲、之ニ因ル危害ノ發生ハ之ヲ豫想セザル

ヲ得ザル所デアリマシテ、從テ豫メ其ノ場
合ニ於テ生ズベキ慘禍ニ備ヘ、極力空襲ノ
危險ヲ防止シ、及ビ其ノ被害ヲ輕減スルノ
用意ヲ整ヘマヌルコトハ今日ニ於キマシテ
極メテ肝要ノコトデアアルト認メラレノデ
アリマス、諸外國ニ於キマシテモ、夙ニ防
空ニ關スル法規ノ整備ニ腐心致シマシテ、
現ニ防空法規ノ制定ヲ見タルモノモ既ニ數
箇國ニ達シテ居ルヤウナ實情デアリマス、
我が國ニ於キマシテモ數年來各地方ニ於テ
防空演習ヲ行ヒ、空襲ノ場合ニ處スベキ國
民ノ訓練ニ努メツ、アリマスコトハ、既ニ御
承知ノ通りデアリマス、併シナガラ從來ヨ
リ行ヒマシタル防空演習ナルモノハ、之ヲ
法規ニ基キ實施致シテ居ルモノデハナイノ
デアリマシテ、即チ適宜官民ノ申合せニ依
リ、適當ニ之ヲ行フニ過ギナイモノデアリ
マシテ、其ノ實績ニ徴シマスルニ、一面ニ
於キマシテハ燈火管制等ノ場合、或ハ地方
ニ依リ其ノ方法區々ニ岐レテ、眞ニ其ノ效
果ヲ收ムル上ニ遺憾ノ點ガ少クアリマセ
ヌ、他面一定ノ防空ニ關スル基本的計畫ガ
ナクシテ、單ニ一時的ニ其ノ演習ヲ行フノミ
デハ、有事ノ際ニ眞ニ缺クベカラザル諸般
ノ設備ヲ豫メ準備スル上ニ於キマシテ、十
分ナラザルノ憾ミモアルノデアリマシテ、
政府ト致シマシテハ一定ノ防空計畫ヲ樹テ、
ソレニ基キ平素統制アル訓練ヲ行フト共
ニ、必要ナル設備、資材等ノ整備ヲ爲シ、
且其ノ費用ヲ負擔スベキ者ヲ定メ、又ハ國
民ニ對シ或種ノ義務ヲ命ズルノ必要ヲ感
ジ、即チ茲ニ防空ニ關スル法規ヲ制定スル
ノ必要ナルコトヲ認メマシテ、從來ヨリ種々
考究ヲ續ケテ參ツタノデアリマスルガ、漸ク
其ノ成案ヲ得マシテ御審議ヲ煩ハスコトト

致シタ次第デアリマス、今法案ノ内容ノ重
要ナルモノニ付テ簡單ニ御説明申上ゲマス、
先ヅ第一ニ防空ナルモノノ意義ヲ明カニ
シ、且防空ハ總テ防空計畫ニ基イテ之ヲ實
施スベキモノデアアルコトヲ規定シ、第二ニ
ハ其ノ防空計畫ハ地方長官又ハ其ノ指定ス
ル市町村長ヲシテ之ヲ設定セシムルコトヲ
以テ原則トシテアルノデアリマス、唯特ニ
必要アル場合ニ於キマシテハ、行政廳ニア
ラザル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシム
ルコトトシ、且設定者ニ於テ是ガ實施ノ責
ニ任ズベキコトト致シタノデアリマス、第
三ニ更ニ特定ノ者ニ對シ防空計畫ノ遂行上
必要ナル義務ニ服スベキコトヲ命ジ得ル旨
ノ規定ヲ設ケマシタ外、特ニ燈火管制ヲ行
フ場合ニ限リマシテ、一般國民ニ對シ光ヲ
祕匿スベキ義務ヲ命ジタノデアリマス、第
四ニ防空計畫ニ基キ防空訓練ヲ行ヒマス場
合ハ、總テ主務大臣ノ命令ニ依ラシメ、以
テ其ノ統制ヲ圖ルニ努メシメタノデアリマ
ス、第五ニ、防空ニ關スル費用ハ防空計畫
ノ設定者デアリマスル地方長官、市町村長
ノ統轄スル地方團體、若シハ特別ノ必要
ニ依ツテ特ニ防空計畫ノ設定ヲ命ゼラレタ
ル者、又ハ特殊施設ノ管理者、所有者ヲシ
テ之ヲ負擔セシムベキ旨ヲ規定シタノデア
リマス、尙之ニ對シマシテハ國庫ヨリ相當
ノ補助ヲ爲スコトト致シタノデアリマス、
第六ニ防空實施ノ爲メ國民ノ被ルベキ損失
ニ對シマシテハ、必要ト認ムル限度ニ於テ
損失ノ補償、實費ノ辨償、又ハ療養葬祭費
ノ支給ノ途ヲ開イテ居ルノデアリマス、第
七ニ防空計畫ノ設定ニ當リマシテ、其ノ意
見ヲ徵シ、又ハ防空ニ關シテ必要ト認メラ
ル、各方面ノ連絡等ニ便ナラシムルガ爲ニ

中央及各地方ニ於キマシテ防空委員會ヲ設
ケルコトニ致シタノデアリマス、第八ニ本
法ハ成ルベク速カニ之ヲ實施致シタイ者デ
アリマスルガ、諸般ノ準備等ノ關係モアリ
マシテ、施行ノ時期ニ付キマシテハ勅令ヲ
以テ定ムルコトト致シタ次第デアリマス、
何卒御審議ノ上、速カニ御協賛ヲ賜ハラム
コトヲ御願ヒ致シマス
○議長(公爵近衛文麿君) 質疑ノ通告ガゴ
ザイマス、淺田男爵
〔男爵淺田良逸君演壇ニ登ル〕
○男爵淺田良逸君 只今上程ニ相成リマシ
タル防空法案ニ付テ、主トシテ內務大臣ニ
質問ヲ致シマス、事ノ陸軍其ノ他ニ御關係
ノアリマスルコトハ、當該大臣ヨリ御答辯
ヲ御願ヒ致シマス、防空ナケレバ國防ガナ
イ、防空ナクシテ何等ノ國防ゾト云フヤウ
ナコトガ唱ヘラレテ居リマスルノデ、茲ニ
私ハ防空ノ必要ヲ申上グルコトハ無益ナコ
トト考ヘマス、故ニ今同陸海軍ノ豫算ニ於
キマシテモ、合計三億七十餘萬圓ノ航空防
空ニ關スル豫算ヲ計上シテゴザイマス、是
ヨリ見マスレバ海軍ニ於キマスル艦船ノ建
造、改造、維持ト陸軍ニ於ケル航空、防空
以外ノ諸經費ト、此ノ陸海ヲ合ハセル所ノ
航空、防空ノ諸經費ト云フモノハ實ニ十三
億ニ餘ル所ノ軍事豫算ノ三割立ト考ヘル譯
デゴザイマス、斯クノ如ク致シマシテ、軍ガ
既ニ持ツテ居リマスル所ノ勝レタル飛行能
力ニ新タニ此ノ空中勢力ヲ加ヘマシテ、一
朝事アル時ニ於キマシテハ、察スルニ、先
ヅ以テ敵ノ航空根據地ヲ破壊致シ、續イテ
襲來スル敵機ヲ阻止シ、一機ト雖モ我が國土
ニ飛來スルコトナカラシメルコトニ努メル
ニ相違ナイト考ヘルノデゴザイマス、デハ

ゴザイマスルガ、對者ハ優勢ナル飛行機ヲ
有シテ居リ、空ハ立體的ニ無限デアリ、到
底其ノ一機ヲモ我が上空ニ飛來セシメ得ズ
ト云フコトハ望ムベキコトデアアルケレドモ
期セラレヌコトトデゴザイマス、斯クノ如ク
ニシテ生ジマスル所ノ被害ヲ極度ニ輕減シ
ヨウト云フコトハ、當ニ本法ノ防空法ニ依
ラナケレバナラヌコトト思ヒマス、此ノ必要
ナルコトニ付キマシテハ、本議場ニ於キマ
シテモ多年絶叫セラレマシテ、國民モ亦切
ニ之ヲ要望シテ居タ所デアリマス、今日遲
レタリト雖モ、本法ヲ提案スルコトノ出來
マシタコトニ付キマシテハ、私共ハ國民ト
共ニ滿腔ノ欣喜措ク能ハザルト共ニ、又事
茲ニ至ラシメマシタ所ノ軍ノ指導、內務當局
ノ御盡力ニ對シマシテハ、勲カラザル御骨折
ニ對シマシテ敬意ヲ表スル次第デゴザイマス、
以下質問ノ内容ニ入ルノデゴザイマスガ、
凡ソ物ノ初ハ大切デアリマス、又見方ニ依リ
マシテハ初カラサウ良イモノハ出來ルモノ
デハナイ、先ヅ拵ヘテ置イテ、ソレカラ其
ノ後ニ經驗ヲ積ンデ直セバ宜イデハナイカ、
此ノ二ツノ議論ハアリマセウケレドモ、立
法ト致シマシテハ出來ル限り、最初ニ於テ完
全ナモノヲ作ルノガ宜イト思フノデアリマ
ス、此ノ見地ニ基イテ若干ノ質問ヲ試ミタ
イノデゴザイマス、外國ノ例ヲ申上グルノ
モ變デゴザイマスケレドモ、何ト申シマシ
テモ最モ痛切ニ防空ノ必要ヲ感ジテ居リマ
スルノハ「ヨーロッパ」諸邦デゴザイマス、
即チ此ノ意味ニ於キマシテハ、先進國トモ
考ヘラレマス「ドイツ」ニ於キマシテハ、防
空ハ國家ノ責任デアアル、全國民ハ防空ノ爲
ニ勞役ノ給付モ物品ノ給付モソレ等ハ皆國
民各自ノ負擔デアアル、斯ウ云フ風ニナッデ

居リマスルシ、又アノ自由ヲ尊重致シマスル所ノ「フランス」ニ於キマシテモ、此ノ種ノ防衛、此ノ種ノ防空ハ全國民ノ負擔トスルト云フコトヲ明瞭ニ示シテアルノデゴザイマス、私ハ我ガ國ニ於テモ矢張り斯クアルベキモノト考ヘルノデゴザイマス、勿論日本國民ハ世界ニ比類ナキ忠君愛國ノ人民デアリマスルガ故ニ、左様ナ法規則ヲ縛リガアリマセヌデモ、身ヲ提シテ國難ニ當ルハ當然デアリマス、ケレドモソレアルガ故ニ、法ヲ以テ義務ヲ課スルコトノ必要ナシト云フコトハ言ヘナイト思フノデアリマス、斯クスルコトニ依リマシテ、總テノ國民ガ防空ニ付テ義務ヲ負擔スルノデアル、皆寄ッテカッテ老若男女トナク、總ベテノ人ノ責任ニ屬スルコト云フコトニナツタ所デ、非常ニ是ハ國民精神ヲ統一セシメテ、皆ソレニ専心努力スルコトニ成リ得ルノデアリマス、平時カラ深キ關心ヲ持ッテ各戰時如何ニシテ其ノ義務ヲ果スカニ付テハ、研究ニ於キマシテモ、訓練ニ於キマシテモ一層力ヲ入レルニ至ルデアラウト思フノデアリマス、私ハ若シモ之ヲ義務トシナイデ、只今御説明ニアリマシタ如ク、或種ノモノニ義務ヲ課シタト云ヒ、或種ノモノニ重キ義務ヲ課シ、他ノ一般ノモノニ義務ヲ課サナイ、ソレハ一體ドウ云フ譯デアリマス、私ノ御尋ラシタイノハ、國民一般ニ防空ノ義務アリト規定スルコトガ何カイケナイ理由ガアルノカ、不可ナリトセバ其ノ不可ナル理由ヲ伺ヒタイノデアリマス、又必要ナシト云フナラバ其ノ必要ナキ理由ヲ伺ヒタイノデアリマス、若シモ必要ハアルケレドモ、ドウモ工合ガ悪い、遠慮シタ方ガ宜イト云フノデアリマスタラバ、ソレヲモ伺ヒタイノデア

リマス、デスクノ如クニ致シマシテ、左様ナ人間ハナカラウトハ思ヒマスルケレドモ、若シモ……必要ナル場合ニ、緊切ナル場所ニ防空ノ爲ニ大事ナル業務デモヤレト無理ニ強要スルコトガ出来ナイノデアリマス、又色々ノコトモアリマシテ、家事上ノ都合モアツタリ、利害ノ關係モアリマシタリ、色々ナコトガアツテ、サウシテ自分ガソレニ出ルコトヲ欲シナイ、應諾ヲシナイト云フ時ニハ、如何ニ爲サレルノデアリマス、之ヲ強制スルコトハ義務付ケルコトニ依ッテ初メテ完備スルモノト思フノデアリマス、質問ノ第二ノ點ハ今回ノ防空法案ハ、是ハ軍以外ノ防空デアリマス、官民一致ノ防空デアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ國民防空デゴザイマス、是ト軍ニ於テ行ヒマス所ノ防空トノ分界ハドウナルノデアリマス、私ハ決シテ左様ナ所ノ隔マデホヅクリマシテ、イヤ此處ニ線ヲ劃シロトカ、判然區別ヲセニヤナラストカ決シテ申スノデハナイ、是ハ全ク軍ノ防空ニ應ジテ書イテ居ル文字ハ誠ニ妙ヲ得テ居ルと思フノデアリマス、此處デ私ノ御尋ラ致シマスルコトハ、此ノ防空法案ノ中デ、直接軍ノ指揮ヲ受ケ、或ハ指導ヲ受ケテ行フ行爲ガアルカナイカ、今日ノ民間航空ハ誠ニ劣弱ナモノデアリマス、甚ダ憂フベキモノノ一ツデゴザイマス、ケレドモ民間ハ近イ將來ニ於キマシテ、篤志家ナドモ優良ナ、或ハ軍等ニ於テ持ツヨリモモット金ヲ掛ケテ飛行機ヲ持ツト云フ人モ出テ来ルデアリマセウ、又優秀ナ操縦者モアルカモ存ジマセウ、是等ノ人モ義勇兵トシテ斯様ナ防空ノ必要ナ時ニ於テハ、身ヲ以テ敵機ニ當ッテ碎ケルノ慨ヲ以テ戰場ニ馳驅スル所ノ民間飛行家モ

出テ来ルカモ分リマセウ、又私共左様ナ者ノアルコトヲ希望スルノデアリマス、此ノ法案ニハ一言モサウ云フコトハ書イテ居リマセウ、書イテ居リマセウノハ、私ハ蓋シ左様ナ民間航空デアツタナラバ、機械モ操縦者モ悉ク軍ニ於テ徵發スルノカモ知レマセウ、ケレドモソレハ必ズシモサウデナイトシタナラバ、私ガ只今申スヤウニ民間ノ義勇兵ハ自ら飛行機ヲ飛バシテ、サウシテ空中ニ於テ、武器ヲ持ッテ居ラヌカモ知レマセウカラ、機體自體ヲ以テ敵機ト衝突スルノ慨ヲ持ッテヤル者モアルデアラウト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、御尋シタイノハ、民間航空ト云フモノヲ全部戰時ニ於テハ軍ガ徵發スル積リデアルカ、若シモ殘ッテ居ルモノガアルトスレバ、私ノ只今申シタヤウナ行爲ハ誠ニ賞揚スベキモノデアアル、ソレガ本法案ノ中ニ掲ゲテ居ラスノハドウ云フ譯カ、次ニ監視網ノコトデアリマス、防空ノ諸動作ノ中ニ於キマシテ最も困難デアリマスルモノハ、最モ初期ニ行ハレマスルモノハ、敵機ノ襲来ニ對スル監視デゴザイマス、デハ莫大ナル人員ヲ要スルと思フ、昔デゴザイマスレバ、大都市ノ周圍ニ環ラ描キマシテ、何「キロ」以内ノ所ニ來タラドウスルカト云フコトダケデゴザイマシタガ、今日ニ於キマシテハ全國悉クニ監視網ヲ設置シナケレバ、帝都ナリ其ノ外ノ要點ノ保安ハ期シ難イト思フノデアリマス、是ガ爲ニハ莫大ナル人員ヲ要シ、津々浦々ニ到リマス迄監視網ヲ設立サレナケレバナラス、就中最モ邊鄙デアリマスル所ノ、官權ガ一人モ居ラナイ山ノテッペンアタリト云フヤウナモノコソ監視ノ爲ニ最モ重要ナ地點デアアルカモ知レマセウ、左様ナ所ハ恐ラク軍

ニ於テ占據ヲシ、軍ノ監視網ノ中ニ入ッテ居ルカ知レマセウガ、併シナガラ是ガ補助ハ民間ノ監視網ニ待タナケレバナラス、必ズ軍ノ持ッテ居リマスル所ノ監視隊、指揮官ナルモノハ民間ノ監視網ヲ指揮シテヤルモノデハナカラウト思フノデアリマス、斯様ナコトニナリマスルト、何處ガ一體、軍ニ於テ行フ防空ト本法ニ於ケル防空ノ境界デアアルカト云フ所ニ疑問ヲ生ズル譯デアリマス、此ノ點ヲ御尋ネ致シマス、第四ニハ中央統轄機關ノ問題デゴザイマス、是ハ必ズシモ外國ノ例ヲ舉グル譯デハゴザイマセウガ、「ドイツ」ニ於キマシテハ、タクト一ツノ航空省ガ之ヲ掌握致シテ居リマス、「フランス」ニ於キマシテハ各省ニ分レテ居リマスルケレドモ、内務省ガ航空、防空ニ關スル編成及業務ヲ指導監視スルコトニナッテ居ルノデゴザイマス、「イギリス」ニ於キマシテハ、陸空ト内務省ノ三ツニ分レテ、甚ダ不統一デアアル、誠ニドウモ業務上ノ連繫協同ガウマタイカナ、斯様ナコトニ於テ、又再ビアノ倫敦マ浸サレタヤウナコトヲ醸シヤウナ憂ガアルト云フコトデ、議會ニ於キマシテ大ナル問題ニナッテ居ル今日、今茲ニ設定セムトスル本法ニ於キマシテハ、何レガ主管デアアルカト云フコトガ明カデアリマセウ、無論只今ノ御説明ノ通り、地方行政ノ管區ニ從ッテヤル以上ハ、内部省ガ是ガ主管デアアルニ相違ナイト思ヒマスケレドモ、ケレドモ内務省以外ニ鐵道省ト云フモノハ非常ナ世帯ヲ持ッテ居リマス、全國ニ網ヲ張ッテ居リマス、又遞信然リ、各省ニ別レテ居ルノデアリマス、サウシテ内容ヲ觀察致シマスレバ、内務省ノ方カラ或通知ヲ發スル、又協議ヲスルト云フコトガアルノデゴザイ

マス、併シナガラ通知ナルモノ、協議ナルモノハ左程權威アルモノデハナイ、勿論自衛的ノ問題デアリマスガ故ニ、敢テ通知ナク、協議ナクモ自衛ヲ全ウシナケレバナラスケレドモ、各其ノ主管ヲ達ヒ、目的トスル所ガ違ヒ、大臣ガ違ヒマス以上、ソコニ兩者ノ間ニ於テ緊密ナル連繫協同ト云フコトヲ期シ難イ所ノ弱點ガ生ズルノデハナイカト思フノデアリマス、茲ニ於テ私ハモット内務省ノ權限ヲ強化致シ、サウシテ之ヲ統一的ニ指導スル必要ガアリヤナシヤ、又内務省内ニ於キマシテ如何ニナサル積リデアルカ、又民間航空ノ必要ヲ唱ヘラレテ、漸ク今日遞信省ノ中ニハ航空局……外局ガ設置セラレルコトニ相成ツタ、私ハ初メカラ防空ト云フ此ノ緊切ナル事項ニ付キマシテハ、内務省ニ於テ或局課ヲ作ルナリ、漸次之ニ力ヲ用ヒルヤウニシナケレバナラスノデアツテ、唯地方行政課ノ一課ナドニ居リマシタノデハ、是ハ十分ナル機能ヲ發揮スルコトガ出来ナイノデハナカラウカ、此ノ點ニ關シマシテハ如何デアリマセウカ、餘リ質問ガ長クナリマスルノデ、先ヅ半分位……以上ノ點ニ付テ御意見ヲ御伺ヒ致シマス

(國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(河原田稼吉君) 只今淺田男爵カラ適切ナル御尋ヲ受ケマシタノデ、段々ト逐次御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、第一ハ、防空ニ付テハ國民全體ガ身ヲ挺シテ當ラナケレバナラス、然ルニ本法ニ於テハ唯特殊ノ者ニ對スル義務ダケヲ規定シテ居テ、他ノ國民ニ對シテノ義務ヲ規定シテ居ラヌガ、ソレデ十分ト考ヘルカドウカ、斯ウ云フ御尋ノヤウニ拜承致シマシタ、御述ニナリマシタ通り、法律ニ於テハ特殊技能

者、即チ第六條ニ於キマシテ、特殊技能ノアル者ハ強制ニ防空ノ事務ニ從ハナケレバナラス場合ガアル、若シ其ノ命令ニ違反シタ場合ハ相當ノ處罰ヲ受ケルコト云フ規定ガアリマスガ、一般ノ國民ニ付テ防空ノ爲ニ強制徴収ト云フヤウナ、強制ニ驅リ出シタリ働カセルコト云フ規定ハナイノデアリマスガ、併シ是ハ大體ノ仕組ガ國民一般ガ斯ウ云フ問題ニハ身ヲ挺シテモ働クベキモノデアルト云フコトヲ前提ニシマシテ、特ニ強制ニ其ノ義務ニ服サシメルコト云フヤウナ規定ヲ設ケナカッタノデアリマス、唯特殊ノ技能ノアル者ニ付キマシテハ、是ハ例ヘバ醫師トカ、看護婦トカ、サウ云フヤウナ者ハ萬一其ノ命ニ應ゼザル場合ニハ、其ノ事業ノ遂行ニ支障ヲ來スノデアリマスカラ、是ハ矢張り法律ヲ以テ強制ニ應ズルノ義務ヲ規定シタノデアリマス、外ノ一般ノ國民ニ付キマシテハサウ云フ規定ガナクテモ、大體ニ於テ支障ナカルベシト云フ考デアリマスル共ニ、萬一サウ云フ多少不心得ナ者ガアリマシテモ、ソレハ此ノ義務ノ遂行ノ爲ニ大シタ支障ヲ生ジナカラウ、斯ウ云フ所カラ出テ居ルノデアリマス、サリナガラ本法ノ精神ハ何處迄モ衆ト共ニ防空ノ爲ニ法律ノ強制ニ據ラズシテモ、國民一般ヲシテ、殊ニ市町村ヲシテ防空ノコトニ當ラシメル、斯ウ云フ精神カラ出来テ居ルノデアリマス、デ現在ニ於キマシテモ相當何等法規ノ規定ニ據ラズシテ、毎年色々ナ防空ニ關スル演習等ガ行ハレテ居ルノデアリマシテ、是等ニ對シテ大體ニ於テ所謂道德的ナ義務ニ違反スルヤウナ事實モナイノデアリマスカラ、殊ニ防空法ト云フヤウナ一ツノ法律ヲ作リマスレバ、之ニ依ッテ一般

ノ國民ヲ指導スルコトモ出来ルデアラウ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、ソレカラ第二ハ國民防空ト、陸海軍ニ於テ行フ所謂軍防空トノ境界如何ト云フ御尋デゴザイマシタ、是ハ只今御述ニナリマシタヤウニ、法ノ第一條ニ於キマシテ、此ノ防空法ニ基ク國民防空ハ陸海軍ニ於テ行ヒマスル軍ノ防空ト關聯シテ、即應シテ之ヲ行フ、斯ウ云フコトノ精神ヲ諷ッテ居ルノデアリマス、デ是等ノ境界ハソレソレ或ハ勅令、若シクハ防空計畫等ニ於テ將來細カク規定セラルベキモノト思ヒマスルガ、大體ニ於テ直接軍ノ指揮ニ從ッテ居ルモノハ所謂軍ノ防空デアリマシテ、ソレ以外ノモノガ所謂本法ニ依ル國民防空、斯ウ云フ風ニ大體ノ區別ヲ付ケテ宜カラウト思ヒマス、是ハ私ガ申ス迄モナク防空ノ計畫ト云フモノハ飛行機ノ發達、或ハ種々ナル事情ニ依ッテ一定不動ノモノヲ作ル譯ニハ行カスノデアリマシタ、其ノ時ノ事情、其ノ時ノ情勢、或ハ飛行機ノ進歩ノ狀況等ニ依リマシテ、色々矢張り細カイ防空計畫ト云フモノヲ始終ソレニ應ズルヤウニ改正ヲ加ヘテ行カナケレバナラスト思フノデアリマス、從ヒマシテ或場合ニ於テハ國民ノ防空ニ屬シテ居タモノモ更ニ進ミマスルト、軍ノ防空ノ範圍ニ入ル、斯ウ云フコトモアラウト思ヒマスガ、要スルニ其ノ情勢ノ進歩、推移ニ應ジマシテ、防空計畫……即チ中央ニ於テ作リマスル防空計畫モ、或ハ府縣ニ於テ作リマスル防空計畫、市町村ニ於テ作リマスル防空計畫モ時時變化ガアルモノト御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ民間航空、所謂民間航空機等ハ是ハ一體何方ニ屬スルモノカ、斯ウ云フ御尋ノヤウニ伺ッタノデアリマスガ、

是亦矢張り或ハ戰時ニ於キマシテ、軍ニ徵發セラレマシテ、軍ノ防空計畫ノ下ニ於テ働イテ居リマスル場合ハ、是ハ矢張り軍ノ防空ニ屬スルモノデアラウト考ヘマス、是等ニ付キマシテハ軍部大臣ヨリ御答ガアラウト思ヒマスガ、サウ云フ風ニ軍ノ防空計畫ニ屬セザル範圍ノモノモ矢張り此ノ本法ニ基ク一般ノ防空計畫ノ中ニ入ル、斯ウ云フ風ニ解釋ヲ致スベキモノト存ジマス、是亦矢張り時勢ノ推移ニ依リマシテ、ソレソレ變化ガアルト云フコトヲ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、第三ニ航空機等ニ依ル監視網、或ハ其ノ外ノ手段ニ依ル監視網ハ周密ニシナケレバナラスガ、其ノ監視網ハ何レニ屬スルヤ、斯ウ云フ風ニ御尋ト了承致シマシタ、是亦其ノ場合ニ於キマシテ、軍ニ屬シテ働イテ居ルヤウナ場合ニハ是ハ軍ノ防空計畫ニ屬シ、然ラザル場合ニ於テハ本法ニ於テ所謂國民防空ノ範圍ニ屬スル、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、私ガ申ス迄モナク所謂是等ノ事項ハ戰時事變等ニ於キマシテ、更ニ種々ナル變化ヲ生ズルコトモアリマセウ、又平素ニ於キマシテモ、或ハ防空委員會等ニ於テソレソレ關係各省ノ人モ其ノ委員トシテ加ハルコトト存ジマスルノデ、ソレ等ノ委員會ノ議ニ於テ適當ナル計畫ガ立ツコトト考ヘルノデアリマス、第四ニ更ニ中央ニ統括的ノ機關ヲ造ル必要ガアルノデハナイカ、斯ウ云フ御尋デゴザイマシタ、是ガ更ニ發展ヲ致シマシテ、將來或ハ航空省ト云フヤウナモノガ出来マシレバ、ソレ等ニ於テ所謂民間航空ニ依ル防空ノ問題モ、或ハサウ云フ役所ノ所管ニ屬スルカト存ジマスルガ、更ニ地上ニ於ケル救護トカ、或ハ地上ニ於ケル警備、或ハ火

災、災害ノ防止ト云フヤウナモノハ是亦矢張り警察ノ問題トシテ、内務省ノ所管ニ屬スルモノト思フノデアリマスルガ、少クモサウ云フモノノマダ出来マセス限リニ於キマシテハ、例ヘバ上空ノ問題ニ付キマシテモ、軍ノ防空以外ノ事項ハ矢張り本法ニ依リマシテ、内務省ノ所管ニ屬セシムルノガ今日ノ實情ニ於テ適當デアル、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス、即チ現在ニ於キマシテハ、内務省ハ所謂警察トカ、或ハ防護、救済ト云フヤウナ廣イ範圍ノ國民防護ノ仕事ヲ致シテ居リマスルノデ、大體ニ於テ矢張り特殊ノ機關ノ出来ス限リハ内務省ニ於テ所管スルノガ適當デアルト、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス、固ヨリ御話ノヤウニ關係各省、或ハ鐵道デアルトカ或ハ通信ト云フヤウナ方面ト十分ナ連絡ヲ取ラナケレバナラスコトハ固ヨリデアリマス、殊ニ非常事變或ハ戰時ノ際ニ於キマシテハ、特ニ緊密ナル連絡ヲ取ルコトハ固ヨリデアリマシテ、例ヘバ先般大正地震火災等ノ場合ニ於キマシテ、當時内務省ガ中心ニナリマシテ、各省ト緊密ナル連絡ヲ取ツテ、大體其ノ善後處置ニ遺漏ナイコトヲサレタノデアリマスガ、サウ云フ風ニ假令仕事ガ多少分レテ居リマシテモ、ソレノ緊密ナル連絡ガ取り得マシシ、尙更ニ是等ハ防空委員會或ハ防空計畫等ニ於キマシテ、十分適當ナ研究ヲ遂ゲマシテ、遺漏ノナイヤウニ出来ルコトデアラウト、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス

(國務大臣杉山元君演壇ニ登ル)

○國務大臣(杉山元君) 淺田男爵ノ只今ノ御尋ニ對シマシテ、陸軍ニ關係ヲ致シテ居リマスル件ニ付テ御答ヲ申上ゲマス、第一

ハ民間航空ヲ防空ニ利用スル考ガアルカドウカト云フ御尋デゴザイマス、此ノ件ニ付キマシテハ、外國ニ於キマシテハ防空義勇隊、或ハ防空高射砲隊、斯ウ云フヤウナ軍隊以外ノモノヲ、積極的防空ノ一部ニ利用ヲ致シテ居ル國モアルノデゴザイマス、併シナガラ現在帝國ノ建前ト致シマシテハ、國民ヲシテ自發的又法令ノ規定ニ依リマシテ消極的防空、即チ此ノ防空法ニ規定シテ居リマスル此ノ國民防空ニ專念致シマシテ、之ニ依ッテ得ル所ノ成果ガ期セズシテ大局的ニ積極的防空ニ寄與スルヤウニ進メタイ、斯ウ云フ考デ今日此ノ防空ヲ考ヘテ居ルノデゴザイマス、次ニ御尋ノ監視網ノ關係デアリマスルガ、監視網ハ成ルベク遠イ位置ニ作リマシテ、此ノ監視網ニ依ッテ成ルベク速カニ敵機ノ襲來ヲ發見致シマシテ、之ニ對スル準備ヲ致シマスルト云フ事柄ノ極メテ必要デアリマスルコトハ、男爵ノ言ハレタ通りデアリマス、此ノ件ニ付キマシテハ軍ノ防衛計畫ニ於キマシテ、即チ東部、中部及西部ノ各防衛司令部ガアリマスルノデ、此ノ各防衛司令部ノ計畫ニ於キマシテ、是等ノ連絡ニ監視網ヲ設置スルト云フコトニ付キマシテハ、遺憾ナキ處置ヲシテアルノデゴザイマルガ、此ノ監視網ノ計畫ニモ連絡致シマシテ、各道府縣市町村ガ又之ニ關聯ヲシテ爲スベキ事柄ハ、各、此ノ各機關ニ於テ防空計畫ヲ作リマシテ、防衛司令部ノ計畫ト連繫ヲシテ其ノ任務ヲ盡サヤウニ致シテアルノデゴザイマス、デ此ノ點ニ付キマシテハ、軍ト國民防空ニ從事シマスル所ノ計畫トガ、緊密ニ連絡ヲシテ規定サレテ居ラナケレバナラスト云フコトモ此ノ點ニアルノデアリマシテ、本案ニ於

キマシテ計畫ヲ設定スル場合ニ於テ、十分ニ道府縣市町村ニ於テ連絡スベキコトヲ注意シテアル所以デゴザイマス、防空ノ中央統轄機關ニ付キマシテハ、只今内務大臣カラ御答ヘ致シマシタ通りデアリマス、併シナガラ戰時事變ニ當リマシテ國土ノ一部或ハ全部ガ防衛司令部ノ指揮ニ入ル場合ニ於キマシテハ、是ハ防衛司令部ノ下ニ於テ統一サレルコトニナル次第デゴザイマス

(男爵淺田良逸君演壇ニ登ル)

○男爵淺田良逸君 只今内務大臣ヨリ御答ヲ得マシタ中ニ於テ、國民ニ防衛的義務ヲ負擔セシメナクテモ大體宜シイ、中ニハ不都合ナ者ガアツテモ、ソレ等ハ大局ニハ影響ヲ及サス、左様ナ者ハナイデアラウ、ナカラムコトヲ望ムノ意味ノ御答辯デゴザイマシタ、其ノ點ハ私カラ申上ゲタ通りデゴザイマスガ、關東大震災ノ狀況ヲ見マスレバ誠ニ思ヒ半バニ過グルモノガゴイマシテ、自分ノ利害、生命財産ノ保護、サウ云フコトノ爲ニ爭ウテ大混亂ヲ惹起スルヤウナコトモゴザイマス、是ハ最早二十年ニモ近い過去ノコトデアリマスルカラシテ、今日ノ國民ハ、單ニ唯國民ノ自覺ニ依ッテ申シマシテモ、今日ノ生活不安ノ狀態ハ餘裕ヲ決シテ持ッテ居リマセヌノデアリマス、餘裕ヲ持ッテ居ラナイ其ノ日暮シヲシテ居ル國民ニ對シテ、深刻ニ防空ノ必要ナルコトヲ自覺サセ、サウシテ之ニ訓練ヲモサセテ、平時カラ深い關心ヲ持ッテ準備ヲスルト云フコトニ付キマシテハ、私ハモット此ノ方ニ於テ國民ニ義務ヲ課シタ方ガ宜クハナイカト云フコトヲ申上ゲタノデゴザイマス、此ノ點御考慮ヲ煩ハシタイノデゴザイマス、次ニ軍トノ限界ニ付キマシテハ色々

御説明ガアリマシタ、誠ニ御答辯トシテハ優レタ御答辯デアリマス、狀況ニ依リ時機ニ依リ、ドウトモ裕リガ取レルヤウニナサルコト云フコトデゴザイマス、ソレハ非常ニ必要ナコトデハゴザイマスルケレドモ、私ハ今日我が國ノ警察ノ一ツト致シテ、各省分立、各權限者ガソレノ別ニナッテ權限ヲ主張シ合フ、斯ウ云フコトガ一つノ弊害デハナカラウカ、左様ナ時ニ是ハ俺ノ持分ダ、ソレハ人ノ權限ニ干涉スル、斯ウ云フヤウナコトガアツタ大變デアル、私ハ是ハ誤デアリマセウケレドモ、今日迄防空法案ノ成立ノ後レテ居ル所以モ亦一ツハ此處ニアルヤニ推測ヲ致シテ、左様デナカラムコトヲ望ムノデアリマス、左様ナコトモ考慮致シマスガ故ニ、私ハ篤ト其ノ邊ノコトニ付キマシテハ一段ノ御考慮ヲ拂フ必要ガアルコトデハナイカト存ジマス、次ニ申上ゲマシタル所ノ民間航空ヲ戰時ドウスルカ、陸軍大臣ノ御答辯ニ依リマシテモ、全部ヲ陸軍デ徵發シテシマツテ、軍防空ニノミ之ヲ使フンダト云フ御答ガナカッタノデアリマス、サスレバ民間航空ト云フモノハ殘ッテ居リマセウ、先程モ申上ゲマスルガ如ク茲ニ篤志家ガアリマス、非常ニ優秀ナ操縦士デアリマス、日本ニハナイ位ノ飛行機ヲ持ッテ居リマス、是ガ戰時防空ノ際ニ晏如トシテ居ルコトハナイ、必ズ此ノ防空ノコトニ參加ヲスルニ相違アリマセヌ、サウスレバ是ハ消極防空デアルトカ、積極防空デアルトカ云フ文字ヲ以テ區別スル必要ハナイ、防空自體全ケレバ宜シイノデアリマス、是ハ中間ニ位スルモノデアル、積極ト言ヘバ積極デアルケレドモ、消極ト見レバ消極デモアル、左様ナコトニ付テ此ノ法

案ニ規定ハアリマセヌノデ、何トカ御考慮ノ必要ガアラウト存ジマス、其ノ次ニ中央統轄機關ノ問題ニ付キマシテハ御答ヲ得マシタ、ソレハ正ニ其ノ通りト拜承シマス、唯内務大臣カラ御答辯ノナカッタノハ内務大臣御自體ノ、御自身ノオヤリニナルコトデアリマス、是ガ爲メ私ハ例ヲ擧ゲテ、「フランス」ノ例ヲ擧ゲテ、「フランス」ハ各省別ニハナッテ居ルケレドモ、法ノ上ニ根據ヲ持ッテ内務大臣ト權限ヲ定メテ居ル、ソレハ航空ノ任、防空ニ任ズル所ノ編成及業務ヲ指導監督スルノ權能ガアル、其ノ權能ニ依リマシテハ他ノ省ニモ適當ナル指令ヲ發スルコトガ出來ルヤウニナッテ居ルノデアリマス、即チ内務大臣ハ其ノ點ヲ如何ニナサルノデアアルカ、ソレ等ガナクテ唯通知ヲ發スル、協議ヲスルト云フノデハ心細イ、サウデナク法ニ根據ヲ持ッテ居ル所ノ内務大臣ノ權限ヲ御設定ナサルノ用意ガアルカ、ソレヲ重ネテ御尋ネ致シマス、次ハ官民一致シテ行ヒマスル所ノ防空ノ各事業ハ法案ノ中ニ示サレテアリマス、監視、警戒、消防、消毒、隨分廣汎ナモノデアリマス、先程燈火管制ノ御話ガゴザイマシタガ、之モ容易ナコトデアリマセヌ、極メテ複雑多岐ナルモノデゴザイマス、如何ニシテ之ヲヤルノデアアルカト云フコトハ、今日迄軍ノ努力ニ依リマシテ概ネ普及シツ、アルノデゴザイマス、私ハ是ハ軍ノ努力ニ對シ大ニ感謝セヌケレバナラヌト思ヒマス、併シナガラ未ダ前途遠達デゴザイマス、何等カ軍ニハアルカハ存ジマセヌケレドモ、一般國民ニ對シマシテ監視、警戒、燈火管制、避難、何時如何ナル方法ヲ以テ、ドウ云フ工合ニヤルノデアアルカト云フコトガ何等サレタモ

ノハゴザイマセヌ、唯民間ニ於キマスル所ノ防空訓練ニ依ッテヤッテ居ルダケデアリマス、ソレガ未ダ不十分デアアルコトハ先程兩大臣ノ、内務大臣ノ述べラレタ通りデゴザイマス、次ニ私ノ茲ニ御尋シタイノハ、斯クノ如キ各般ノ防空行事ニ關シテ行動ヲ律スベキ所ノ教範トデモ言フベキモノヲ將來出ス積リデアアルカドウデアアルカ、私ハナケレバ困ルト思フ、若シ出スト云フナラバ、是ハ何カ法ニ根據ヲ有スル所ノモノニシタインデアリマス、左様ナコトハ何等御示ガナイカラ、勝手ニヤルノダト言ヘバソレ迄デアアルケレドモ、凡ソ防空ニ關スル一切ガ根本法デアッテ、是ヨリ防空ニ關スル一切ノ法令、法規ガ出ルヤウニシタイト思フノデゴザイマス、此ノ點如何デアアルカラ御尋ネ致シマス、次ハ防空實行機關ノ問題デゴザイマス、今回ノ法ニ於キマシテハ、地方行政區ニ從ッテ各、其ノ責任ヲ明カニ致シテ居リマス、是ハ至極結構ナコト思フ、而シテ何物ハ如何ナル組織ノモノガ如何ニシテ之ニ當ルノデアアルカト云フコトノ規定ハ全然缺如シテ居ルノデアリマス、只今迄ハ御説明ガアリマシタ如ク、東京ニ於キマシテハ東京震災防護規程ト云フモノガアリマシテ、是ハ各軍衙、官衙等ガ皆共同シテ作ッタモノデアリマス、皆サン御承知ノ通り各町々ニモ自由的ノ防護團ト云フモノガゴザイマス、是ハ地方ニ依ッテ色々組織ヲ異ニスルモノデアリマス、軍ノ助成ニ依リマシテ今日ノ發達ヲ見タト云フコトハ、私ハ國家ノ爲メ非常ニ喜バシイコト思ウテ居ルノデアリマス、之ニ付テ外間或ハドウモ防護團ハ不都合ナモノデアルトカ、或ハ斯ウ云フ過失ガアッタトカ云フコトヲ申ス、ソ

レハ或ハサウデアアルカモ知レマセヌガ、私ハ大局カラ見マシテ、今日迄義務的ニアレ等ノ人達ガアノヤウニ熱心ニ防護義務ヲ、強制的義務ヲ持タナイノニ、義務的ニ努力シテ來タコトニ付テ、國家トシテ感謝スベキモノデアルト考ヘテ居ルノデゴザイマス、私ヲシテ言ハシムレバ、左様ナル試驗濟ノ一ツノ防護團ト云フモノガ組織サレテ居ルモノガアル、然ル所今回ノ法案ヲ見マスレバ、何ガ一體防空ニ當ルノデアアルカ、防空實行團體ト云フモノニ付テハ一言モ言及シテ居ラスコトデアリマス、是ハ私ハ法ノ不備デハナカラウカト思フ、唯行政ノ組織ニシテヤルンダ、斯ウ云フ計畫ヲ作ルンダト云フコトデアアルケレドモ、ソレ等ノ實行團體ガ如何ナル實行者ガ之ニ當ルノデアアルカト云フコトノ規定ガナイト云フコトハ、私ハ全ク缺陷ト申サナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレニ付テハ如何デゴザイマセウカ、無論是ハ書イテ居ラスト云フコトハ不必要ト云フノデアリマセヌ、極メテ必要デアアルケレドモソレハ各府縣、市町村ニ御任セニナルノデアアリマセウカ、御任セニナルトスレバ區々マチノモノガ出來ル、ソレハ區々マチノモノ宜シウゴザイマセウ、宜シイカモ知レマセヌケレドモ、其處ニ矢張り研究ヲシテ、多年軍ト相協力シテ内務省ガ御決メニナリマスルカラニハ、此ノ大切ナル防空ノ實行團體ト云フモノニ研究ヲ進メテ、略スウ云フモノガ宜イ、斯ウ云フモノヲシテ實行ニ當ラシメルンダト云フ御考ガナケレバナラヌト思ヒマス、火事ト云フモノガアリ、是ハ恐ロシイモノデアアル、故ニ消防ノ組織ガ必要デアアル、私ハ防空ト云フモノガ必要デア

ル、防空ノ實行ニ任ズル所ノ團體ガ必要デアアルガ故ニ其ノ組織ガ法ノ上ニ決メラレテ居ラナケレバナラヌ、若シ決メラレテ居ラナイト言フナラバ、ソレハ此ノ法ヨリ段々ト生レテ行ク所ノ其ノ根據トナルベキコトダケデモ此ノ法ノ中ニ規定スベキモノデナカラウカト思フ、此ノ點如何デゴザイマセウ、其ノ次ハ防空助成機關ニ關スル件デゴザイマス、先刻モ申上ゲマシタ如ク防空ノ各作業ト云フモノハ極メテ廣汎ニシテ多岐多端デアリマス、而モ斬新ナル科學ヲ根據トシナケレバナラヌモノデアリマス、ソレガ爲ニハ或組織ガ出來マシテ、實行ニ任ズルノデゴザイマセヌケレドモ、其ノ組織體ノ中ニハ幹部ガナケレバナリマセヌ、指導者ガナケレバナリマセヌ、如何ニシテ之ヲ養成スル積リデアアルカ、「ドイツ」ニ於キマシテハ千數百ノ防空學校ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソレノミナラズ「ドイツ」ニ於キマシテハ十軒ノ……大概十戸ガ一ツノ家ヲ占領致シテ居リマス、其ノ一軒ノ家ニソレノ組織ガゴザイマス、サウシテ毎週必ズ一回ハ「ナチス」ノ幹部ガ參リマシテ防空ノ教育ヲ致シテ居リマス、サウシテ其ノ中堅トナルベキ者ニ對シテハ特別教育ヲ致シテ居リマス、尙又ソレヲ町々ヲ集メマシタル所ノ大ナル區域ニ於キマシテハ、一箇月ニ一遍必ズ行ッテ居リマス、サウシテ中堅幹部ヲ教養スルノミナラズ、怠リナク何時左様ナ機會ニ遭遇シマシテモ慘禍ヲ未然ニ防ギ或ハ局限スルコトニ付テノ手段ヲ怠リナク行ッテ居ルノデゴザイマス、是ハ極メテ必要ナコトト思フ、私ハ今更消防協會ノ必要ナルコトヲ、消防ニ關シテ申上ゲルノデハナイ、ソレト比較ヲシマシテモ遙カニソレヨ

リモ此ノ助成機關が必要デアリマス、デ今日迄防空ノコトヲ誰ガヤルノデアルカ、例ヘバ陸軍軍指導シマスル所ノ國防協會ト云フモノノ中ニモ防空ト云フ字ガアル、又在郷軍人會ノ規則ノ中ニモ防衛ト云フ字ガアル、斯ウ云フ風ニシテ防空ノコトハソレソレ皆注意ヲ拂ッテ居リマスルケレドモ、總ツテ防空ト云フコトヲ今日迄ヤッテ來テ居ル所ノ機關ト云フモノハ甚ダ少イノデアリマス、私ハ斯様ナモノハ是非ナケレバナラヌト思フ、現ニアリマスモノハ、數多アリマスルケレドモ、我々ノ先輩デアリマスル所ノ藤村男爵ガ會長トナッテ作リマスル國民防空協會ノ如キハ、昭和五年以來今日ニ至ルマデ終始一貫、熱心ニ此ノ事業ヲ研究、調査、宣傳、其ノ他指導ナドヲ致シテ居ルノデゴザイマス、斯様ナモノガアリマシテ、軍ニ於キマスル所ノ專門家ノ御指導ヲ受ケ、其ノ御指揮ヲ仰イデ、サウシテソレ等ノ中堅幹部ト相俟ッテ防空ノ任務ヲ今日マデ致シテ來テ居ルノデゴザイマス、ソレデ私ハ是非トモ是ガナケレバナラヌト思フ、而シテ之ヲヤラセルト云フコトニナリマシタナラバ、之ヲ一ツニスルカ、全國的機關ヲ、防空協會ト云フ一ツノ本部ヲ作り、支部ヲ各所ニ設ケルト云フカ、組織上ノ細部ニ付キマシテハ、是ハ爾後ノ研究ニ俟タナケレバナラヌコトト思ヒマスルケレドモ、是非トモ斯様ナ機關が必要デアルト思フ、サウシテ之ニハ學校ヲ建設セシメル、其ノ學校ニ皆入レマシテ、サウシテ各市町村ニ於キマスル部分毎ニ、部落デアルトカ、或ハ字デアルトカ云フ所、或ハ町デゴザイマスレバソレノ區劃ニ從ヒマシテ、中堅トナルベキ人ヲ教養シナケレバナリマセ

ス、之ニハ可ナリ莫大ナル費用ヲ要スルモノト思ハナケレバナラヌ、即チ學校ヲ設置スルト云フコトニナレバ、建設、經營、色色ナ費用ヲ要スルコトニ相成リマス、又此ノ防空協會ナルモノニ色々ナル任務ヲ課スルトシタナラバ、之ガ活動ノ爲ニ勢カラズ經費ヲ要スルコトニ相成ルノデゴザイマス、ソコデ私ノ御尋シタイノハ、此ノ防空助成機關、此ノコトニ付テハ如何様ニ御考ニナッテ居リマスカ、私ノ只今質問致シテ居リマスルコトハ、防空助成機關ト云フ大キナモノノ組織、是ガ持タナケレバナラヌ所ノ學校ノ如キモノハ如何ニナサルカ、其次ハ、現在我が國ニ於キマシテ、防空助成機關ニ對シテ最モ關心ヲ持ツベキモノハ、如何様ナモノガ何處ニオアリニナルカ、其ノ御取調ガ出來テ居ルカドウカ、若シ出來テ居ルトシタナラバ、如何ニシテ之ヲ統轄、綜合、整理セムトスルカ、其ノ次ハ建築ノ事項デゴザイマス、今日我が國ノ都市ノ建築ハ誠ニ雜然タルモノデゴザイマス、此ノ新議事堂ハ誠ニ是ハ上空ニ對シマシテハ好目標ヲ呈スルモノデアリマスル模範的ナモノデアリマス、斯様ナモノハ各所ニ散在ヲ致シテ居リマス、白聖ノ殿堂天空ニ聳エテ居リマシテ、サウシテ良好ナル空中目標トナツタ時ニ、如何ナル影響ヲ此ノ附近ニ及スカラ思ヒマスル、私ハ無關心デ居ルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、是ハ單ニ此ノ議事堂ニ關スルノミナラズ、比々皆然リ、少シモ此ノ空襲ヲ考慮スル所ノ建築ト云フモノハ今日迄ハ考ヘラレテ居ラナカッタノモ已ムヲ得ナイデアリマセウ、サウ申シタナラバ軍部大臣ハ、都市計畫法ガアル、市街地建築物法ガアルト申サレル

カモ知レマセス、無論ゴザイマス、ゴザイマスガ、是等ニ讓ルトシテモ、私ハドウモ安心ガ出來ナイ、何故ナラバ此ノ兩法案ノ中ニハ一言モ防空ト云フ字ガゴザイマセス、即チ防空ト云フコトニ付テハ考慮ヲ拂ハナカッタ、或ハ極メテ關心ノ薄イ時代ニ出來タ其ノ儘ノモノデゴザイマス、何トシテモ防空ニ關シマシテハ、私ハ是ハ法ノ上ニ於テ根據トナルベキモノハ、防空ニ關スル限リ此ノ法カラ出テ來ルヤウニシナケレバナラヌト思フ、サウシテソレノ法案ニ依ッテ、今度ハ例ヘバ保安衛生デアルトカ、或ハ色々ナソレノ必要ニ應ジテ敷衍ヲシタ意味ガ加ッテ來ルベキモノデアラウト思フ、然ル處、本法案ノ何處ヲ見マシテモ、防空ニ關シテ、地上建築或ハ地表面上ノ施設交通、就中地下施設ハ非常ニ大切デアルノデ、若シモ此處ニ著眼ヲ致シ、色々ナ助成ヲスルトカ、色々ナ方法ヲ講ズルコトニ依リマシテ、早く、一刻モ早ク之ヲ整ヘルノデナケレバ、空襲ノ時ニ非常ナル混雜ト被害ヲ被ルコトハ眼ニ見エルヤウナコトデアアル、私ハ是非トモ今後ニ於キマスル所ノ都市建築ニ於テハ、此ノ防空ヲ一切考慮シテヤラナケレバナラヌモノト思フノデ、是ハ都市ニ於テ極メテ大切デアアル、都市ハ即チ國ノ中樞ヲ成スモノデアアル、東京ノ如キ、大阪ノ如キ、斯様ナ大都市デアリ、而モ策源地デゴザイマスル所ノ斯様ナ所ガ、我々ノ能ク軍部カラ伺ヒマスル所謂超爆撃機ノ空襲ヲ受ケマシタ時ニ於テ、アノ關東震災ヲ思ヘバ、如何ナル被害ガ來ルカ、斯様ナコトヲ考慮致シマシテ、私ハ漫然ト此ノ建築ヲ今日ノ儘ニ放置スルコトハ、非常ナル是ハ失態デアルト存ズルノデアリマス、斯

クノ如キ狀態デアリマスルカラシテ、私ハドウシテモ此ノ防空ニ關スル限リ是ハ根本法ト致シ、此ノ中ニ建築、地下構築、其ノ他地上ノ一切ノコトニ付キマシテ、必要ナル要件ヲ生ミ出ス所ノ基ヲ之ニ包含セシムル必要ガナイカト云フコトヲ考ヘマシテ、此ノ點ヲ御尋ネ申上ゲマス

〔國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(河原田稼吉君) 御答ヲ致シマスガ、第一ニ防空ノ實行機關デアリマスル所ノ從來ノ防護團、斯ウ云フモノニ付テ本法ニ何等ノ規定ノナイノハドウカ、斯ウ云フ御尋ト伺ヒマシタ、只今御述ニナリマシタヤウニ、防護團ト云フモノガ各地ニ於テ設立セラレテ居リマシテ、是等ガ篤志ニ基イテソレノ相當ナル働ヲ致シテ居リマシテ、將來亦斯クノ如キモノガ防空ノ方ニ於テ必要デアリ、且其ノ活動ヲ俟タナケレバナラヌコトハ、只今御述ニナリマシタ通りト思ヒマス、サリナガラ本法ハ先程申上ゲマシタヤウニ、大體ニ於テ基礎的ノコトヲ規定致シマシタ、詳細ノコトハ勅令或ハ府縣若シクハ市町村等ニ於テソレノ防空委員會ト云フヤウナ專門、適切ナル人ヲ網羅シマシタ委員會ニ諮問ヲ致シマシテ、ソレソレ適切ナル防空計畫ヲ定メル手筈ニ相成ッテ居リマスルノデ、且又防空計畫ノ設定竝ニ其ノ施行者ト云フモノハ、府縣ニ於ケル防空計畫ハ府縣知事、市町村ニ於ケル防空計畫ハ市町村長ト云フヤウナ公共團體ノ長ガ其ノ責任者ニナルコトニナッテ居リマスルノデ、其ノ防空計畫ニ於テソレ等ノコトガ規定セラレラデアラウト斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、從ヒマシテ從來ノ防護團ト云フヤウナモノガドウ云フ形ニ於テ現レ

テ來ルカト云フコトハ、ソレ／＼將來ノ詳密ナル計畫ニ基キテ規定セラレルノガ適當ナル、斯ウ云フ風ニ考ヘマシテ、法律ノ上ニハ此ノ防護團ト云フモノヲ特ニ規定致サナカッタ次第アリマス、サリナガラ從來ノ防護團ノ活動、其ノ他將來防護團ト云フヤウナ形ハ、何レニシマシテモ斯ウ云フ團體ノ活動ヲ期待スルコト云フコトハ、私ガ申ス迄モナイト思フノデアリマス、ソレカラ第二ニ防空助成機關即チ防空協會ト云フヤウナモノノ將來ニ對シテ、是等ヲ助成スル意思アリヤ否ヤト云フヤウナ御尋ニ伺フタノデアリマス、是ハ固ヨリ私共モ必要ト考ヘマシテ、將來斯クノ如キ助成機關方法ニ基キテ出來テ居リマスル防空計畫以外ニ於テ出來マスルコトハ非常ニ望ム所デアリマス、只今ニ於キマシテハ御承知ノ通り、防空協會、或ハ國防協會ト云フヤウナモノガ設立セラレテ居リマスルケレドモ、是等ハ未ダ微力デアリマシテ、十分デハナイヤウニ思フノデアリマス、本方法施行實施セラレタ後ニ於キマシテ、ソレ／＼防空計畫ガ緒ニ就キ、其ノ實施ガ漸次行ハル、ニ從ヒマシテ、是ト相俟ツテ所謂篤志的ノ防空協會、若シクハ何等カノ形ニ於ケル助成機關ノ發達致シマスコトハ、當局トシテ希望スル所デアリマス、ソレカラ次ニ本法ニハ、防空ノ上ニ於テ最モ必要ナルベキ建築ニ關スル問題トカ、或ハ交通ニ關スル問題、其ノ他地上地下ニ關スル何等ノ規定ガナイデハナイカ、斯ウ云フ御話デゴザイマシタ、實ハ本法制定ニ付キマシテ、各種ノ法案ヲ研究致シタノデアリマス、最モ完全ナルモノトシテハ、所謂建築、交通其ノ他ヲ網羅致シマス所ノ法案モ考ヘテ見タノデアリマ

スケレドモ、併シサウ云フ問題ハ所謂多岐ニ亙リマシテ、或ハ他ノ法案、即チ市街地建築物法トカ、或ハ都市計畫法ト云フヤウナ、從來ニ於キマシテ、防空ト云フコトヲ離レタ文化ノ問題ニ於テ立テラレテ居リマスル法案トノ關係ニ於テモ非常ニ密接ナル點モアリ、且又今日ノ國民經濟、民間ノ經濟、或ハ更ニ國家ノ財政ト云フヤウナコトモ考慮ヲ致サナケレバナラスノデアリマシテ、取敢ス今回提案致シテ置キマシタ此ノ法案ハ、大體ニ於テ國民ノ防空ニ關スル訓練ト云フコトヲ主眼ニ致シ、更ニ防空ニ必要ナル最小限度ノ設備ヲ爲スベキコトヲ規定致シテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、將來更ニ時勢ノ狀況ニ依リマシテハ、モット完全ナルモノヲ作ラナケレバナラスヤウナコトニ立至ルカモ知レマセヌ、更ニ又別箇ノ立場ニ於テ、或ハ都市計畫法トカ、或ハ市街地建築物法ト云フモノヲ、防空ト云フ觀點ノ上カラモ考ヘナケレバナラスヤウナ狀況ニ立至ルヤウナコトモアラウト思ヒマスルガ、取敢ズ只今申上ゲマシタヤウナ、國民的訓練並ニ設備ノ最小限度、少クモ是ダケノ設備、或ハ國民的義務ヲ規定シナケレバナラスト云フ所カラ作リマシタ次第デアリマシテ、將來情勢ノ變化ニ依リマシテハ、更ニ又此ノ法案ト云フモノニ、手ヲ入レナケレバナラスヤウナコトモ起ルカモ知レヌト思フノデアリマス、大體ニ於テ其ノ實施ハ本法ヲ基幹ト致シマシテ、之ニ依ッテ與ヘラレタル機能ニ依リマシテ、地方ニ於テソレ／＼適切ナル計畫ヲ立テル、斯ウ云フ所ニ出デテ居ルノデアリマス、之ニ對シテ國家ガ二分ノ一以內ノ補助ヲスルト、斯ウ云フ國家ノ義務ヲ規定シタ、斯ウ云フ次

第デアリマス、デ只今御述ニナリマシタヤウニ、是等ノ諸問題、殊ニ建築トカ或ハ交通トカ云フヤウナ地上地下ノ問題ガ、防空ニ關聯シテ極メテ必要デアリ、大イニ考ヘナケレバナラスト云フコトニ付キマシテハ、只今淺田男爵ノ御述ニナリマシタ通りト思ヒマシテ、私共ハ誠ニ御同感ヲ申上ゲル次第デアリマス、尙先程御答ヘ漏レヲ致シマシタガ、先程御述ニナリマシタヤウニ、取敢ズ此ノ防空ヲ扱ヒマスル事務トシテハ、地方局ノ一課ノ中ニ過ギマセヌケレドモ、將來此ノ事務ガ發展致シマスルナラバ、更ニ是等ノ所轄ノ局課モ考ヘナケレバナラスト、斯ウ云フコトニ相成リマセウト思ヒマスケレドモ、只今ハ取敢ズ昭和十二年ニ於テハ約二萬圓ノ事務費ヲ要求シテ居ルニ過ギナイ次第デアリマス、尙所管ハ大體ニ於テ內務大臣デゴザイマスルケレドモ、本法ニ於キマシテハ主務大臣ト云フ言葉ヲ用ヒテ居ルノデアリマス、ソレ／＼其ノ所管ノ事務ニ從ヒマシテ、自ラ勅令其ノ他ニ於テ主務大臣ノ範圍ガ極ルノデアラウト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

(男爵淺田良逸君演壇ニ登ル)

○男爵淺田良逸君 二回ニ亙ル兩大臣ノ詳細ナル御答辯ニ對シテ謝意ヲ表スルモノデアリマス、其ノ中デ御答辯漏レノモノヲ申上ゲマス、ソレハ監視、警戒、燈火管制等諸作業ヲ實施スルノハナカ／＼容易ノコトデハナイ、之ヲウマクヤル爲ニ、何カ行動ノ基準トナルベキ所ノ御示ガナケレバナラスガ、ソレハ如何ナサルカト云フコトノ御答辯ハアリマセヌ、第二點ハ內務大臣トシテ他ノ官廳ニ對シ、何カ權限ヲ持ッテナサルコトガ便利デアリ、效果ヲ舉ゲル所以デハ

ナイデアラウカ、此ノ點ヲ如何ナサルカト云フコトモ私ハ聽キ漏ラシタノデアリマス、ナカッタヤウデゴザイマシタ、第三點、委員會ヲ設ケテ防空ノ實行ニ當ルトノコトデゴザイマス、是ハ法令ニ明示シテ居ルガ、或ハ之ニ關聯シタ中ニゴザイマスルカラ、サモアルベキコトト思ヒマス、ケレドモ依然トシテ委員會デアッテ、諮問機關デアラウカト考ヘマス、實行機關デアリマセヌ、無論此ノ委員會ニ於キマシテ練ッテ、最良ナモノヲ市町村ニ於テ作ルデハアリマセウト思ヒマスルケレドモ、私ハ市町村長、或ハ知事ガウマクヤルダラウト、斯ウ云フノデハ心細イ、何カソコニ根據トナルベキモノヲ發案考慮ヲ致シ、御示ガナケレバ思フヤウニ行カヌノデアル、是ガ必要デアル、ソレガ爲ニ中央ノ御役所ガアルノデアル、此ノ點ハ如何デアルカ、以上ノ如クマダ質問モアルノデゴザイマスルケレドモ、徒ニ長クナルコトヲ避ケマシテ、是デ終了スル譯デゴザイマスガ、私ハ何モ此ノ初メテ生レル法ニ於テ、最初カラ完備ヲ期シテヤルト云フ、是ガ爲ニ練ル、或ハムツカシクテトウ／＼法案ノ生レルコトモ遲滯ヲスル、斯ウ云フコトハ望マシイコトデハナイ、先程內務大臣ハ施行ノ期間ニ付テハ別ニ示スト言ハレタガ、私ハ一刻モ早ク此ノ法案ヲ貴衆兩院ガ通過ヲ致シテ、サウシテ明日ヨリ之ガ準備ニ邁進シナケレバナラスコトト思ウテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ決シテ此ノ難キヲ求ムル譯デハアリマセヌデ、已ムヲ得ナケレバ是ダケデモ私ハ満足ヲ致シマス、ドウカ希クハ今後ノ色々ナ研究調査ニ於キマシテ、十分ニ、極メテ迅速ニ、眞剣ニオヤリ下サイマシテ、完全ナル法律ヲ作ルコトニ御願

ヲシタイノデアリマス、ノミナラズ私ハ之ヲ實施スルニ付キマシテハ、ナカ／＼内務省トシテハ御骨折リデアラウ、何故ナラバ我が國ノ從來ニ於キマスル狀態ト云フモノハ、國防ノコトハ軍ノ仕事デアルト云フガ如キ考、サウデナイコトハ皆サン御承知デアルガ、實際問題ニ觸レマスルト云フト、斯様ナコトハ軍ニ任シテ顧ミナイ、ト言フテハ語弊ガアルカモ知レマセヌケレドモ、極メテ關心ガ薄イノデアリマス、故ニ保安、警衛、警戒等ニ任ズル所ノ、其ノ職責ヲ持ッテ居ル所ノ内務省ニ於テハ、今日迄此ノ點ニ於テハ如何デアツカ、私ハ過去ニ於テ御關心ガ薄クハナカツカ、併シ私ハ今之ヲ決シテ難ズル者デハゴザイマセヌケレドモ、何卒軍ト相協力致シマシテ、國民ノ防空ナクシテ國防ナシ、之ヲ一ツドウゾ御念頭ニ入レマシテ、爾後ニ於テ一層ノ御努力アラムコトヲ御願ヒ申上ゲテ、私ノ質問ヲ終リマス

〔國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(河原田稼吉君) 只今御答へ漏レヲ致シマシテ誠ニ恐縮ニ存ジ上ゲマス、防空ニ關スル教範ノヤウナモノガ必要デハナイカ、斯ウ云フ御話デゴザイマシタ、誠ニ御尤ノコトト思ヒマス、是等ノ點ニ付キマシテハ、本法ガ施行セラレマシテ、ソレソレ設定ノ責任者ガ出來マシタ曉ニ於キマシテ、中央ニ於テハ固ヨリソレ等ノ根本的ノ方策ニ付テ教範ノヤウナモノヲ作ルコトモ必要デアラウ、斯ウ云フ風ニ考ヘマス、此ノ點ニ付キマシテハ十分研究ヲ重ネタイト考ヘマス、次ニ内務大臣トシテ他ノ官廳ニ對シテ相當權限ヲ持ツ、若シクハ其ノ權限ヲ明カニスル必要ガアルデハナイカ、斯

ウ云フ御言葉デアリマシタ、誠ニ是亦御尤モノ次第ト存ジマスルノデ、勅令其ノ他ガ制定セラレマスル際ニ十分ニ他省ト連絡協調、協議ヲ遂ゲマシテソレ／＼遺憾ノナイヤウニ致シタイト存ジマス、第三ニ委員會ノ如キモノハ諮問機關デアツテ、甚ダ不十分デハナイカト云フ御言葉ノヤウニ伺ヒマシタガ、先程申述ベマシタヤウニ、施行ノ責任者ハ市町村長デアリマスルガ、併シ委員會モ諮問機關トハ申シナガラ、其ノ委員會ニハ所謂權威アル人ヲ網羅シテ其ノ計畫ニ當ラシメマスルナラバ、ソレガ結局ハ其ノ根本的ノ力ヲ持ツ、斯ウ云フ風ニナラウト思ヒマス、是等ノ點ニ付キマシテハ十分ソレソレ或ハ軍部、或ハ其ノ他ノ關係各省ト協調ヲ遂ゲマシテ遺憾ノナイヤウニ致シタイト思ヒマス、其ノ外段々御深切ナル御言葉ヲ戴キマシテ私共誠ニ感佩ニ堪ヘマセヌ、就キマシテハ御言葉ノヤウニ、軍部其ノ他ト十分ナル連絡協調ヲ遂ゲマシテ、遺憾ナキヲ期シタイト存ジマス

○議長(公爵近衛文麿君) 水野甚次郎君

〔水野甚次郎君演壇ニ登ル〕

○水野甚次郎君 戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍以外ノ者ノ行フ防空ヲ完壁ナラシムル目的ヲ以テ本案ヲ提出セラレタトノコトデゴザイマスガ、防空ノ完壁ガ一片ノ本法ニ依リテ得ラレマスルナラバ誠ニ結構デゴザイマス、併シナガラ帝國ノ家屋ハ列強ノソレト異ナリ、其ノ殆下ガ木ト紙ト出来テ居リマス、ロシアノ空軍當局ハ空軍司令官ノ命ヲ受ケテ、僅カ三時間ニシテ東京、名古屋、大阪、廣島、福岡等、帝國ノ中心都市ヲ灰燼セシムルコトハ極メテ容易ナリト豪語シテ居ルデハアリマセヌカ、本法ノ目的

ガ國民ノ航空知識ヲ涵養スルト云フノデアレバ何等議論ノ要ハゴザイマセヌ、併シナガラ防空設備ヲ怠リ、徒ニ個人主義國ノ法文ノ燒直シヤ輸入ラシテ、忠君愛國ノ精神ニ燃ユル帝國國民ニ對セムトセラル、ナラバ無用ノ長物デアリマス、本法ノ如キ設定ナシト雖モ一朝非常時ニ際會シタル場合、其ノ生命財產ヲ君國ノ爲ニ捧グルコトヲ躊躇スル者ハ一人モゴザイマセヌ、若シ萬一誤ッテ實國的行爲アリタル場合、平時絕對ニ之ヲ行ハザル「アメリカ」流ノ「リンチ」制裁サヘ行ツテ、五ニ戒飭セル例ハ日清、日露兩戰役ニ於テモ屢、之ヲ耳ニセル所デアリマス、敵機來襲ニ對スル防空ヨリモ、敵ノ一機タリトモ皇土ノ上空ヲ飛揚セシムベカラズトノ研究ガ急務中ノ急務デハゴザイマセヌカ、即チ何物ヲ犠牲ニ供スルトモ此ノ際大空軍ノ充實ヲ計ラネバナラスコト勿論デアリマス、財政關係上是ガ實現困難ナリトセバ、國營官鐵ノ如キ最モ機宜ニ適シタルモノデアリマシテ、彼此議論ノ餘地ハゴザイマセヌ、仍テ先ヅ民間航空ノ發展ヲ期スベク、航空省設置ガ急務デハアリマセヌカ、併シ本件ニ對シ海軍當局ニ於テ反對ノ御意思アルコトハ從來ノ御聲明ニ依リ御察シスルコトガ出來マス、海軍當局ノ御熱心ナル防空ノ御研究ニハ、全ク國民ハ大ナル信頼ト敬意ヲ表シテ居リマス、故ニ海軍ハ海上防空ノ必要上今日ノ御研究並進展ヲ中止セラル、コトナク將來益、之ニ努メラルベキデアツテ、是ト別ニ航空省新設ニ反對セラル、理由ハゴザイマス、斯クシテ航空大臣主管ノ下ニ本法ノ眞意義ヲ全カラシムル御意思ハゴザイマセヌカ、内務大臣、陸海軍大臣ノ御意見ヲ承リマス

〔國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(河原田稼吉君) 段々御尤モナ御意見トハ存ジマスルガ、行政機構ノ問題ニ付キマシテハ、十分ニ他ノ種々ナル觀點カラモ考ヘナケレバナリマセヌ、御言葉ノ次第ハ十分ニ研究考慮ヲ致シタイト思ヒマス

〔國務大臣杉山元君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(杉山元君) 航空ノ諸機關ヲ強大ニ致シマスルコトニ付キマシテハ、只今御述ニナツタ通りデゴザイマス、此ノ航空ノ強大ナル機關ヲ如何ニスベキカト云フコトニ付テハ、私ハ最モ熱心ニ考ヘテ居ル一人デアリマス、併シナガラ其ノ關係ヲスル所ガ多イノデアリマスルノデ、尙此ノ點ニ付テハ今後ニ於テ十分ニ研究ヲ致シタイト存ジテ居リマス

〔國務大臣米内光政君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(米内光政君) 大空軍ノ充實ヲ圖ルト云フコトハ目下ノ焦眉ノ念デハナイカト云フ御質問ニ對シマシテハ、全ク御同感デアリマス、空軍省設置並防空云々ノコトニ關シマシテハ、前大臣ノ御答辯ノ通り篤ト研究スルコトニ致シマス

○水野甚次郎君 簡單デゴザイマスカラ、此ノ席ヨリ御許シ願ヒマス

○議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○水野甚次郎君 陸海軍大臣ノ、十分誠意ヲ以テ研究シテ、大空軍若シクハ航空省設置ニ關シ、將來安心スルヤウナ研究ヲスルト云フ御答辯デゴザイマシタ、何時モ斯様ナ御答辯ヲ得テ居リマスガ、今回ハ是非トモ御實行ノ域ニ達セラレルヤウニ切ニ御願ヒシテ私ノ質問ヲ終リマス

○子爵池田政時君 只今議題トナリマシタ

防空法案ハ、重要ナ法案デアリマスガ故ニ、特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

防空法案特別委員

公爵鷹司 信輔君 侯爵西郷 從德君

伯爵橋本 實斐君 子爵米田 國臣君

子爵井上 勝純君 子爵富小路隆直君

大島 健一君 坂西利八郎君

男爵菊池 武夫君 男爵今園 國貞君

松村 義一君 丸山 鶴吉君

松本 眞平君 水野甚次郎君

下村 宏君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第七、アル

コール專賣法案 日程第八、揮發油及アル

コール混用法案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ

一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマ

セヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、委員長梅小路子爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參

照ノ爲メ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

アルコール專賣法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十六日

委員長 子爵梅小路定行

貴族院議長公爵近衛文麿殿

揮發油及アルコール混用法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十六日

委員長 子爵梅小路定行

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(子爵梅小路定行君演壇ニ登ル)

○子爵梅小路定行君 只今議題ニナリマシ

タ「アルコール」專賣法案及揮發油「アル

コール」混用法案、此ノ二案ニ付キマシテ委

員會ニ於ケル経過ニ結果ヲ御報告申上ゲ

マス、兩案ヲ束ネテ綜合的ニ申上ゲマス、

此ノ二案ハ燃料國策上ノ必要カラ立案セラ

レタモノデアリマシテ、農村經濟ニモ深キ

關係ヲ有シマスル重要ノ案デアリマシテ、

委員會ハ本月二十五日、二十六日ノ兩日ニ

互リマシテ慎重ニ審議ヲ致シタノデアリマ

ス、從來屢、本會議、本議場ニ於キマシテ

燃料問題ニ付テ質問應答ガ交ハサレマシタ

ガ現今ノ情勢カラ考ヘマシテ、液體燃料ノ

自給ヲ圖ルト云フコトハ極メテ緊要ナ事柄

デゴザイマス、政府ハ人造石油事業ヲ獎勵

致シマスル共ニ、一面ニ於キマシテ揮發

油ニ「アルコール」ヲ混用致シマシテ燃料ノ

不足ヲ補フト云フ制度ヲ實施致シマスルニ

付テ、揮發油「アルコール」混用法案ナルモ

ノガ提出サレタノデアリマス、而シテ其ノ

揮發油「アルコール」混用法案ヲ完全ニ實施

スルニ付テ必要上、「アルコール」專賣法案

ナルモノガ生レテ來タ譯デアリマシテ、此

ノ兩案ノ制度ガ完全ニ行ハレマシテ初メテ

茲ニ燃料國策ニ付テ一步ヲ進メタコトニ相

成ル譯デアリマス、其處デ委員會ニ於キマ

シテハ先ヅ大藏大臣、商工當局等ヨリ詳細

ナル此ノ本案ニ對スル趣旨ニ付テ説明ガゴ

ザイマシタ、更ニ此ノ制度ノ内容及ビ「ア

ルコール」ヲ製造致シマスル技術ノ上ニ付

キマシテモ、詳細ナル説明ヲ求メタノデア

リマス、ソレノミナラズ休憩ノ時間ニ、幸

ニ「アルコール」ヲドウ云フ按排ニ混用出來

ルモノデアルカト云フ實驗モ致シタヤウナ

次第デゴザイマス、尙又燃料問題ニ最モ深

キ關係ヲ持ッテ居リマスル陸海軍ノ當局ニ

對シマシテ、本案ニ對スル陸海軍ノ考ハド

ウデアルカ、ドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト

云フ質問ガアツクノデアリマス、是ハ質問ノ

場合ノコトヲ便宜上此處デ申上ゲマスルガ、

其ノ質問ニ對シマシテハ陸海軍ニ於テハ、

誠ニ結構ナ制度デアルカラ是ガ成立ヲ希望

スルト云フノデアリマス、色々説明モア

リ、理由モ述べラレマシタガ、要スルニ本

案ハ結構ナコトデアアルカラ其ノ成立ヲ熱望

スルト云フコトデアリマス、要スルニ政府

ノ説明ニ依リマス、本案ハ液體燃料ノ大

部分ヲ占メテ居リ、且又最モ大切ナル揮發

油ニ「アルコール」ヲ混用致シマシテ、揮發

油ノ消費ヲ減少セシムルト云フコトガマア

主タル目的デアアルノデアリマス、而シテ「ア

ルコール」ノ製造ヲ原則ト致シマシテ、政府ガ之

ヲ直營ニ致シマス理由ハ、「アルコール」ノ使

用分量ハ非常ニ多イノデアリマス、多量ヲ要シ

マスルノデ、現在ノ如キ民間ノ事業ニ委シテ

置クコトハ不安デアルト云フ點カラ、新タ

ニ比較的大ナル計畫ノ下ニ製造ヲスルト云

フ必要ガアリマスルノト、此ノ原料ニ要シマ

ス甘藷、馬鈴薯デアリマスル是等ノ如キ農

產物ヲ使用致シマスル點カラ、農村經濟ニ

モ密接ナル關係ガアリマスルノト、又一方

ニハ「アルコール」ヲ揮發油ニ混用セシメル

爲ニハ、第一ニ價格ノ統一ノ均一ヲ圖ラナ

ケレバナラス、ソレト同時ニ其ノ販賣モ政

府一手デ之ヲ行ヒタイト云フノガ、此ノ制

度ヲ立テラレタ主タル要點デアリマス、委

員會ニ於キマシテハ各委員カラ色々ト質問

應答ガ交ハサレマシタガ、其ノ質問ノ大部

分ハ手續ノ問題デアリ、或ハ技術ニ互ル質

問デゴザイマシテ、此ノ法案ヲ可トスルカ

否トスルカト云フヤウナ意味ノ含マレタ質

問ハナカクデアリマス、併シ其ノ質問ノ

内容ヲ申上ゲルコトハ非常ニ煩雜デモアリ

マスルシ、又實ハ私モ技術上ノ問題ニ付イ

テハマダ、十分吞込メテ居リマセヌノ

デ、御分リ易ク御報告ヲ申上ゲ兼ネマスル

ノデ、其ノ點ハドウカ速記録デ御覽ヲ願フ

コトニ致シマス、最後ノ質問ニ政府ハ衆議

院ノ修正ニ同意デアルカ否ヤト云フコトデ

アリマシタガ、政府ノ答ヘマスルニ衆議院

ノ修正ハ同意デアル、本案ヲ實施スル上ニ

付テ別段ニ何等妨ガヘナイ、第四十二條ヲ

新クニ設ケテ、特許者、委託者ニ對シテ免

稅ノ規定ヲ設ケタノニ付テモ、其ノ免稅金

額ハ尙ニ僅小ナモノデ、何等苦痛モ感ジナ

イ、差支モナイ、仍テ同意ヲシタト云フコ

トデアリマス、斯クテ討論ニ入リマシタガ、

申上ゲマシタ通りノ狀態デ、何等各委員間

ニ異議ハゴザイマセヌ、從ッテ討論ハゴザイ

マセヌ、無討論デアリマス、唯委員ノ一人

カラ、本案ヲ實施スル上ニ付テ希望ヲ述ベ

ラレマシタ、其ノ希望タケヲチヨット申上ゲ

マス、第一ノ希望ハ、食糧問題カラ説カレ

テ居ルノデアリマスガ、先刻モ申上ゲマシタ

通り、農村ニ於テ甘藷、馬鈴薯等ハ、農村ノ食用品トシテ相當大切ナモノデアリマスガ、其ノ原料ヲ「アルコール」製造方面ニ無闇ニ使フコトニ心ヲ注イデ、食糧ニ缺乏ヲ訴ヘテ、農民ガ困ルヤウナコトガアツテハ困ルカラ、サウ云フコトニ注意ヲシテ欲シイト云フノガ一ツデアリマス、ソレカラ原料ノ買上ニ付テハ農家ノ爲メ、十分農家ノ希望ヲ入レテヤツテ貰ヒタイ、安ク買ヘバ政府ハ得デアラウガ農民ハ困ル、其ノ點ヲ能ク調節シテ考慮サレタイト云フノガ第二デアリマス、第三ハ煙草ノヤウニ特定地ヲ定メナイヤウニシテ貰ヒタイ、煙草ハ此ノ場所ニ栽培ヲセイト云フヤウナ特定ノ場所ガアルノデアリマセウ、サウ云フコトノナイヤウニシテ貰ヒタイ、裏作ヤ何カノ關係上、成ルベク特定地ヲ設ケナイヤウニ、何處デ栽培シテモ宜イヤウニシテ貰ヒタイト云フ意味ラシクアリマス、ソレカラ第四デアリマス、原料ニ付キマシテハ、現今ハ主トシテ馬鈴薯、甘藷ヲ多用ヒテ居ルノデアリマスガ、糖テハ他ノ原料、或ハ木材デアルトカ其ノ他種々ノモノカラ取レルサウデアリマスガ、サウ云フ代用品ニ付テモ十分研究ヲサレタイシ、又新シク原料ニ移ル過渡期ニ於テモ十分注意ヲ拂ハレタイ、斯ウ云フノガ第四デアリマス、第五ニハ製造技術上ニ付テ一層研究ヲサレタイ、マアザツト斯ウ云フ御希望デアツクノデアリマス、是ハ御一人ノ御希望デアリマスガ、委員全體ノ希望ト見テモ宜シイヤウニ考ヘラレマスノデ、政府ハ此ノ御希望ヲ容レルニ付テ十分研究モシ、注意モシ、考慮ヲ拂フト云フ答辯デゴザイマシタ、斯クテ採決ノ結果、兩案共全會一致デ可決サレタヤウナ次第デゴザイ

マス、右御報告申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御發言ガナケレバ、兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 兩案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 全案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 是ニテ日程ハ全部終了致シマシタ、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス、日程ハ決定次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、是ニテ散會致シマス
午後零時十六分散會

